~~~~~~

カルテの呼出し方

~~~~~~

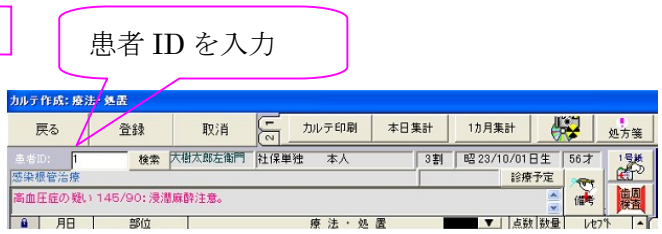
1．予約表から呼び出す方法

予約患者名をマウス右クリックで表示される画面から選択します。
「受付」「予約」画面のどちらからでも表示できます。



2．「カルテ」ボタンから呼び出す方法

予約画面から [カルテ] ボタンを押して



3．患者名や ID が、解らない時は「検索」で呼び出します

検索画面の「検索」ですべての患者を表示します。
患者 ID／患者氏名（一部も可）／電話番号／診療日の内の一つからも「検索」できます。



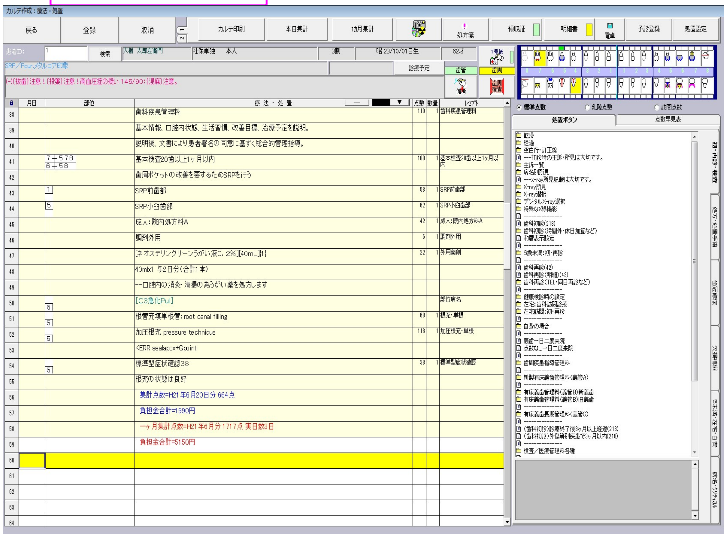
※　ID を入力したら「Enter」キーで呼び出すことができます。

~~~~~~

カルテの入力 過去のカルテの誤入力防止ロック機能付。解除はカルテ画面左上の「カギ」をクリックして解除します。

~~~~~~

カルテの入力 バージョンアップのため実際の画面と異なる場合がありますが,概要は同じです。



初めての患者は初・再診の選択が必要ですが、次回からは自動表示されます。部位欄をクリックすると部位入力画面が表示されます。病名を選択すると病名にあったクリティカル Tab が開き病名に整合性のある処置が選択できます。ボタンをクリックすればカルテに転記されレセプトに反映します。診療終了後に「本日分集計」を押して「登録」すれば完了です。

毎回、部位・病名入力は必要です。

診療明細書発行やレセプト発行には部位・病名は必須ですから診療の都度必ず入力してください。

~~~~~~

患者 ID1の大樹太郎左衛門氏で試行します。

患者 ID へ「1」を入力後「Enter」キーを押します。画面が入力可能になります。

後で説明する「処置設定」もそうですが、誤入力防止の為何か選択しないと画面が入力可能になりません。

「検索」を押すと「患者検索」が出来ます。

患者検索は「あいまい検索」機能で患者 ID・受診者氏名・電話番号であいまい検索ができます。

また、「受診日」検索で 特定の日付に受診した患者一覧 も検索できます。

DenReport では「総括表」「個人別日計表」「個人別月計表」「日付別月計表」「未来院検索」ができます。

項目を入力しないで「検索」ボタンを押すと全登録患者一覧が表示されます。

「キャンセル」ボタンを押してキャンセルして下さい、次に練習の為患者 ID5を入力後「Enter」を押して記載練習を選択します。練習用ですので何も記載されていません。右の Tab にある初診に矢印を合わせ一回クリックすると色が変わります。Enter キーまたはダブルクリックするとカルテに転記されます。

stamp が押されカルテに転記され初診の日付と時間が表示されます。このデータはレセプトに反映されます。

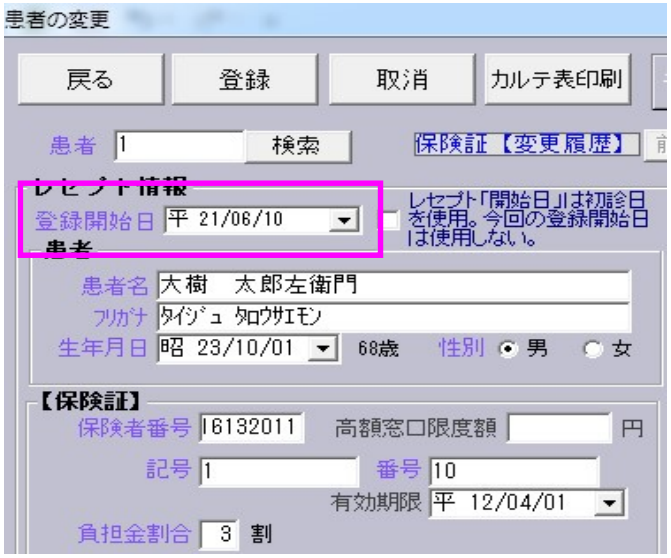
時間は必要に応じてカルテに入力後に削除しても問題はありません。

カルテに空白行を追加する場合は挿入場所の行番号をクリックして黒色反転の状態で「Ins」キーを押します。

新規指導などでカルテ1行目から印刷したい場合はこの機能で調整してください。
~~~~~~

新患登録後、初めてカルテ入力をする場合。

「患者登録画面」



登録開始日＝レセプトの診療開始日です。

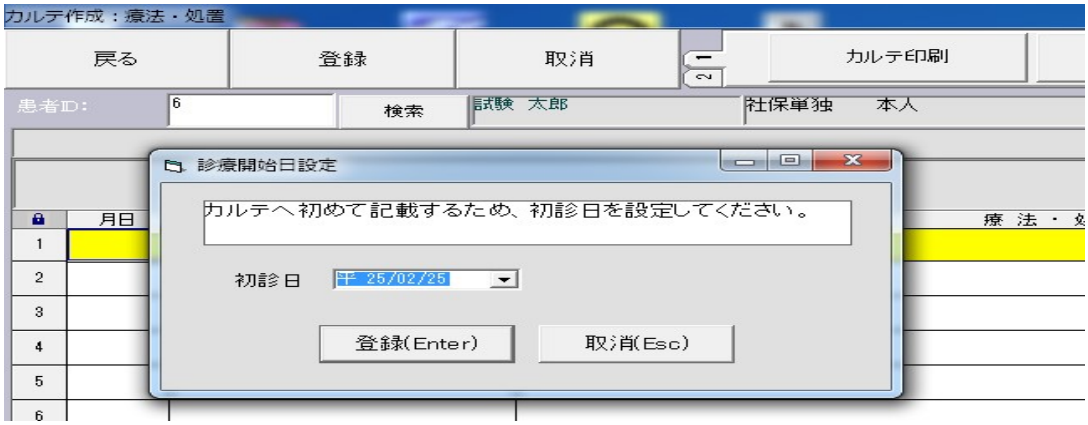
登録開始日を初診日にしてください。

過去をさかのぼって登録する場合、

何度か初診がある場合もございますが

直近の初診日で大丈夫です。

「カルテ画面」



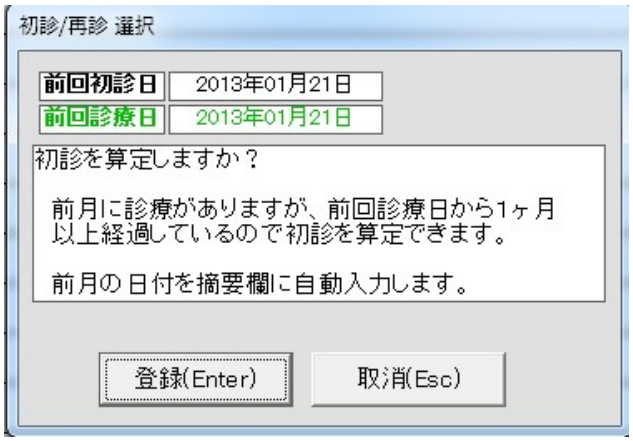
カルテを開き患者ＩＤを入力しキーボードの「Enter」で上記の画面が出ます。

初診日の設定を求められます。初診日当日であればそのまま「登録」です。

初診日を変更する場合は日にちを変更します。▼でカレンダーが出ます。

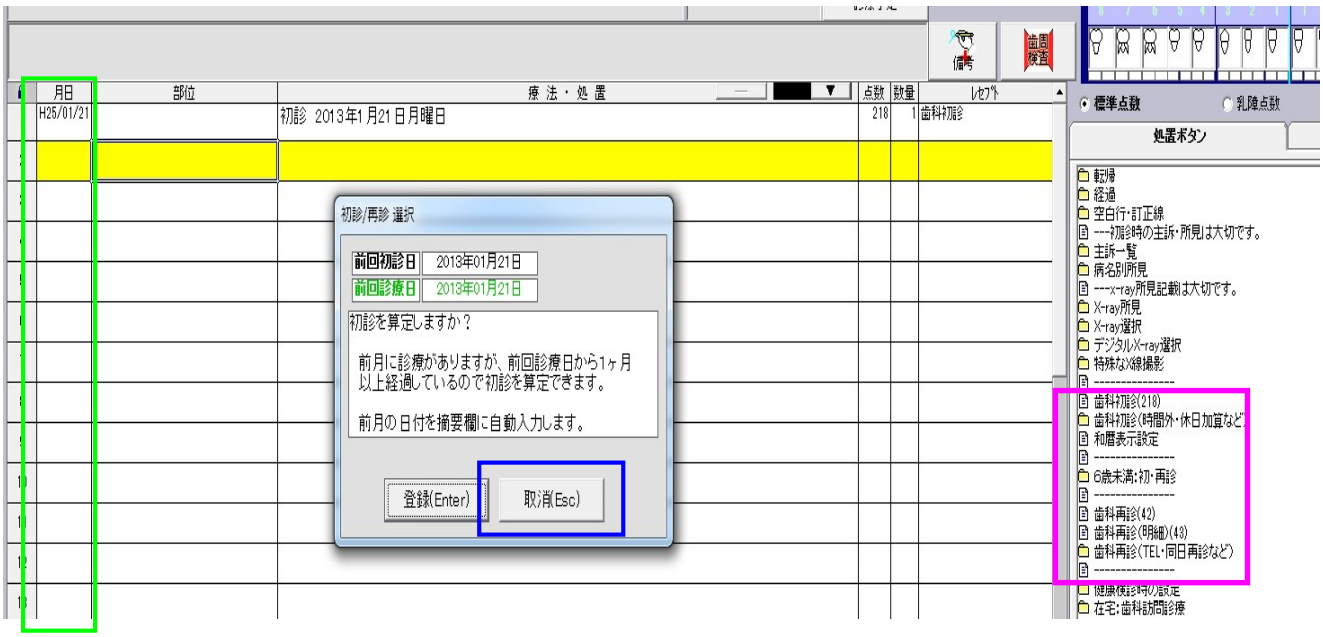


登録後再診や初診を登録する画面が出ます。



前回の診療日から、再初診の期間であれば初診の登録、
再診の期間であれば再診の登録画面がでます。

この際に別の日の入力をする場合などは、一旦■取り消して右側の■処置ボタンから選択してください。

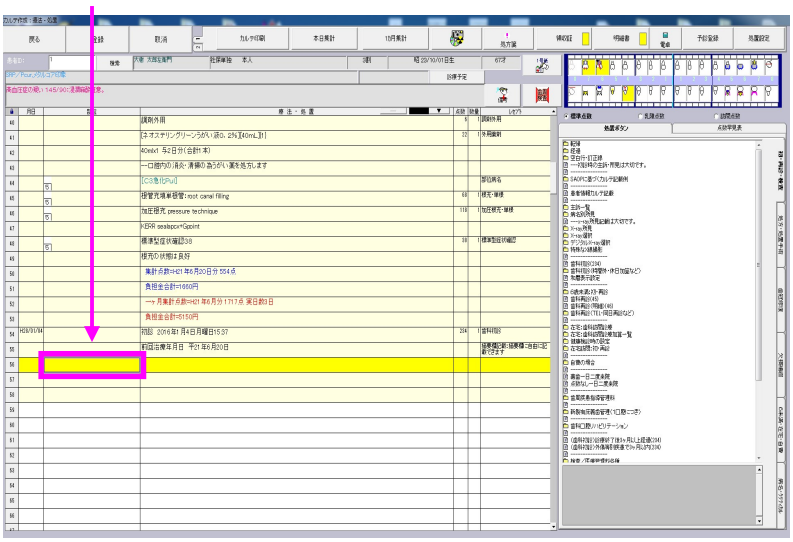


右から歯科初診や歯科再診を選択すると、本日の再診として入力されます。

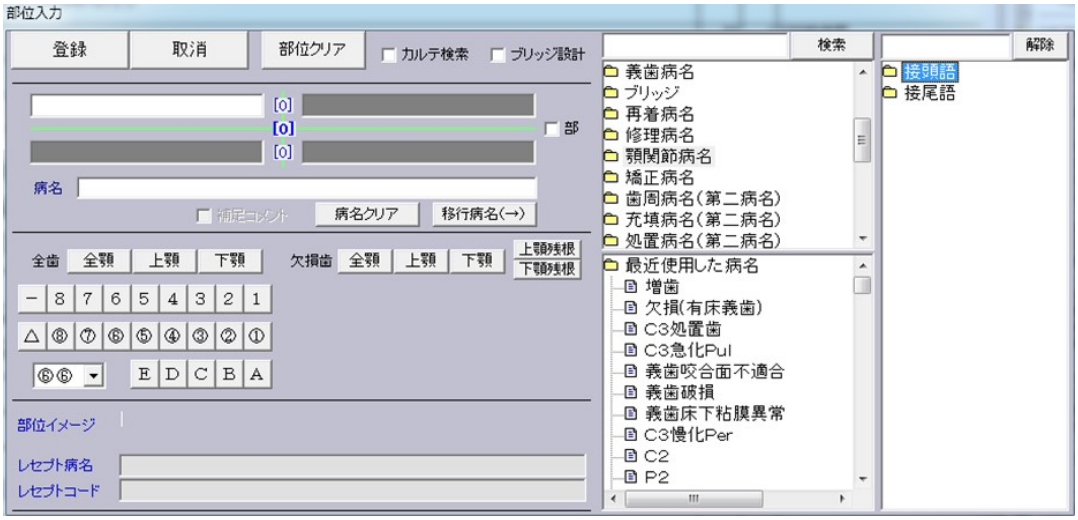
数日間まとめて入力する場合や本日ではない内容を入力する場合は日付を修正するのが
ご面倒と思いますので、予め■月日の欄に日付を入力しておくと便利です。
ダブルクリックで直接入力ができます。さらにダブルクリックでカレンダーが出ます。
該当日を選択し「OK」で日付が入りますので、その後右側処置ボタンより
歯科初診や歯科再診を選択してください。

カルテ入力部位病名入力方法

カルテ画面の部位部分をダブルクリックし、部位病名入力画面を呼び出します。



部位病名入力画面

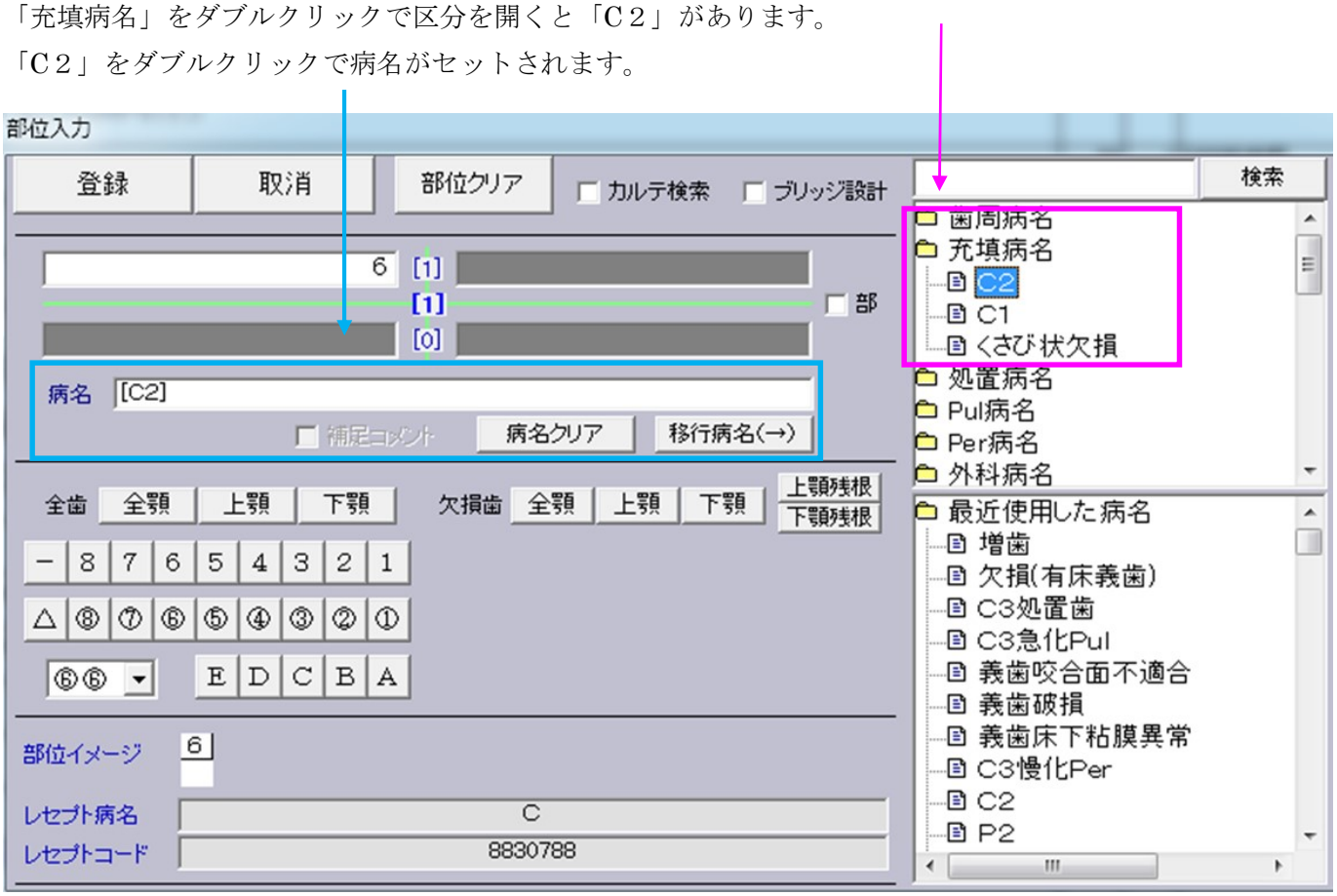


部位、病名はどちらから選択してもかまいません。

例：右上６番を選択しました。数字をクリックかキーボードの数字でも入力可能です。

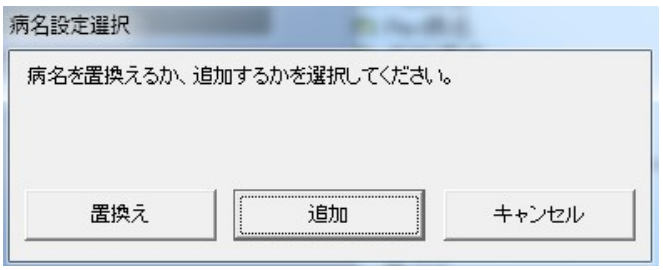


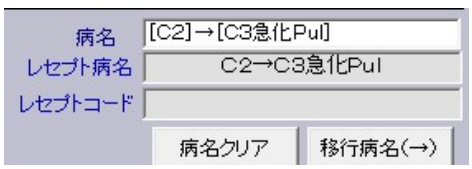
病名入力です。
例：C2 を選択しました。
「充填病名」をダブルクリックで区分を開くと「Ｃ２」があります。
「Ｃ２」をダブルクリックで病名がセットされます。



「最近使用した病名」は使用した病名が一番上に表示されます。流動性はありますが
普段お使いの病名が概ね集まってくるのでご使用に便利です。上部から選んでも、
最近使用した病名から選んでもセットできます。
「初診からの病名」は初診毎に選択済みの病名が表示されてきます。継続している診療などは、
病名を選択すれば前回使った部位が自動セットされるなど便利です。

移行病名を入力する場合は、最初の病名をセットし「移行病名（→)」を選択し、
移行後の病名を選択します。その際表示される「置換え」「追加」「キャンセル」は
「追加」を選択してください。



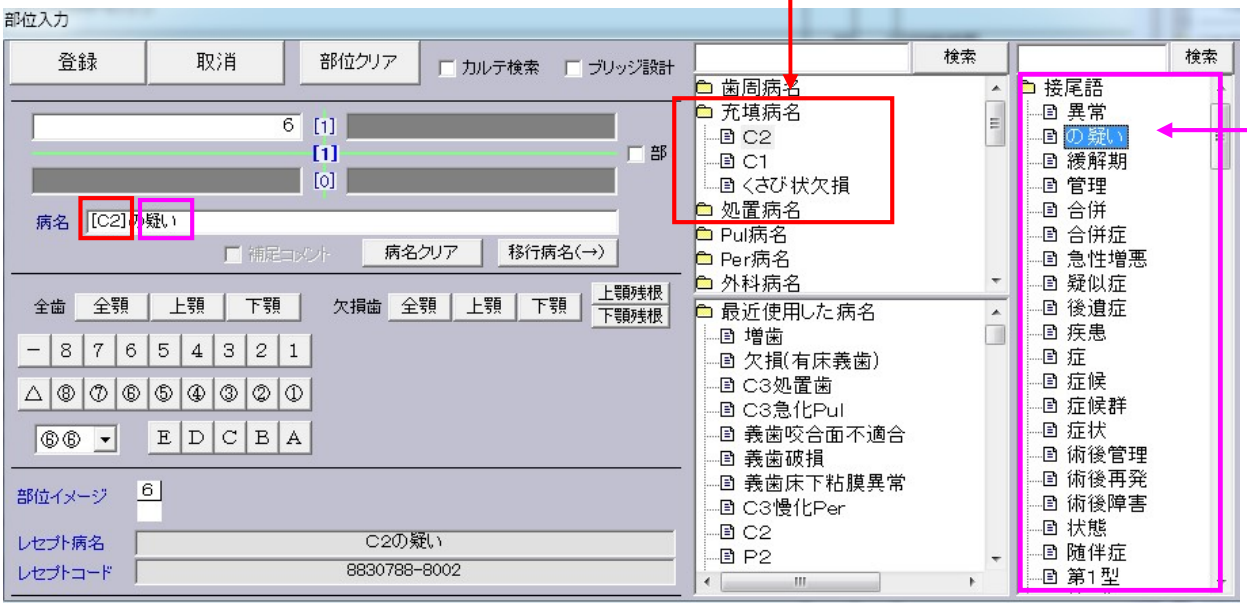


病名併記の場合は、連続して病名を選択し「追加」してください。

病名に接頭語、接尾語を追加する方法

例：「C２の疑い」とする為に、C２病名セット後に接尾語から「の疑い」を選択します。

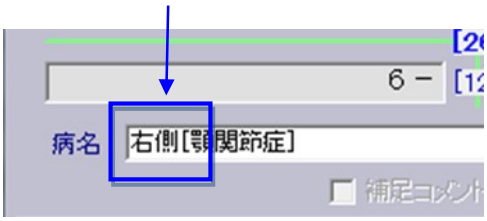
※　病名に対しての修飾語となりますので、まず「病名」選択が必要です。

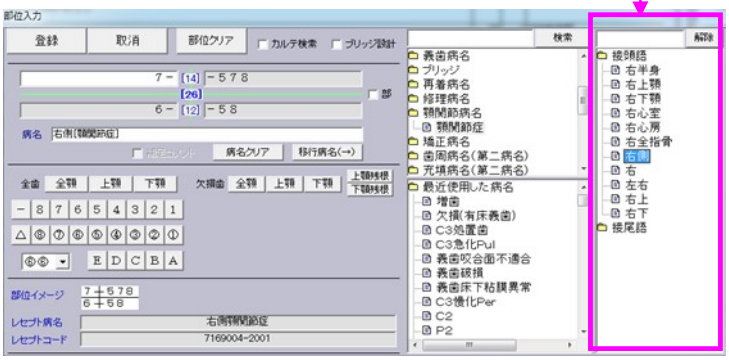


接頭語も同様に病名を選択後に接頭語を選択します。

例：「右側顎関節症」とする為、顎関節症病名をセット後に接頭語から「右側」を選択します。

「接頭語」ですので自動で病名の前にセットされますのでご安心ください。





病名、接頭・接尾語の上部にある「検索」はあいまい入力で絞り込み検索をします。

例えば病名で顎関節症をセットし、接頭語に右側や左側などを探す際、検索部横部分に「右」などと入力していただき「検索」をクリックすれば右と付く接頭語が絞り込まれてきます。

※　検索し「接頭語」「接尾語」の区分をダブルクリックで開くと検索内容が表示されます。

接頭語、接尾語はセットしていただくと自動的にレセ電コードに変換されます。、

複雑なレセ電コードや請求ファイルを設定する必要はありませんので、ご安心ください。

部位や病名、接頭・接尾後、移行病名などのセットが完了しましたら部位病名画面左上の「登録」でカルテに反映されます。

摘要欄コード化の入力方法

摘要欄への記載の為にいくつかの入力が必要になります。

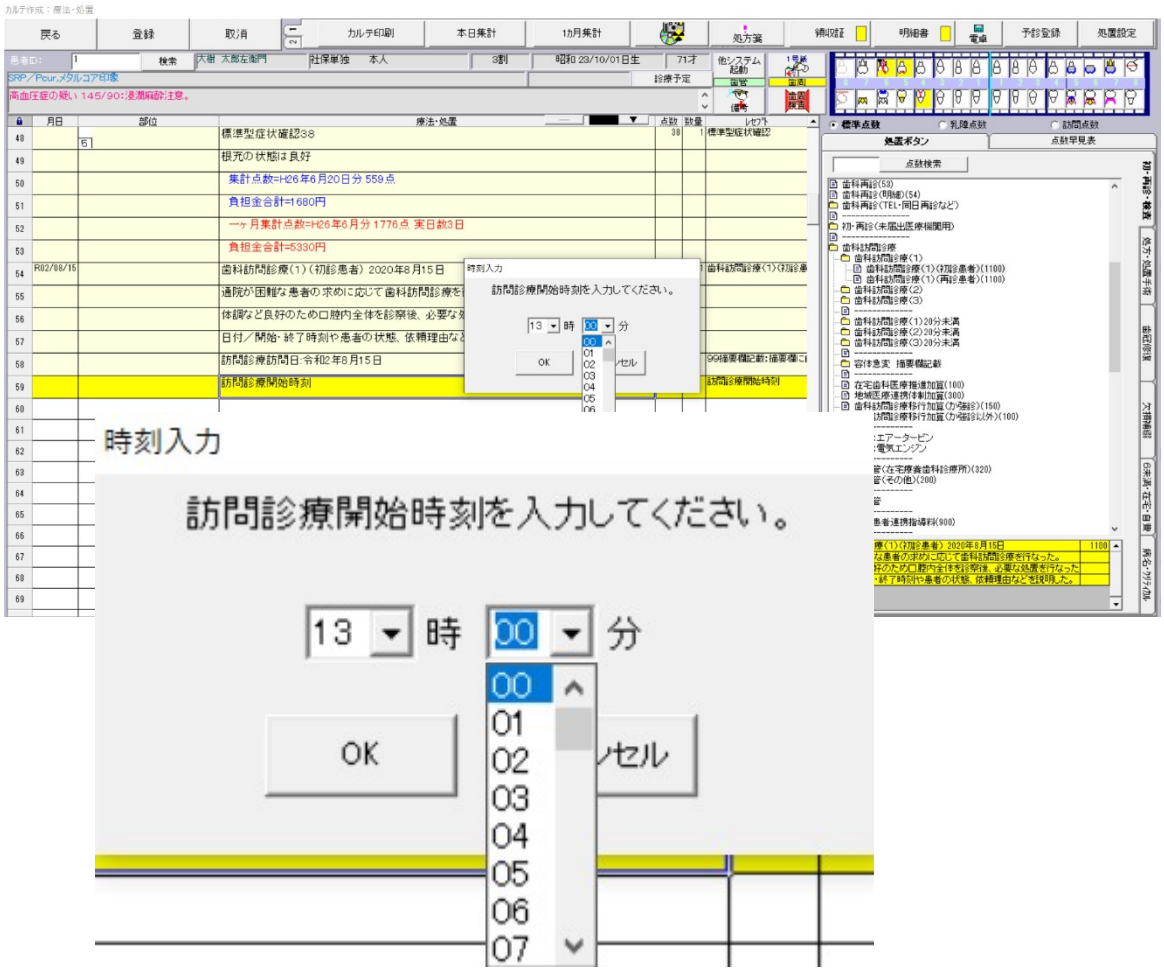
※　コード化自体はシステムで行うため操作の必要はありません。

例：歯科訪問診療(1)でご説明します。

歯科訪問診療は記載要領により訪問日、訪問開始時刻、終了時刻、訪問先、患者の状況の記載が、

それぞれコード化された状態で必要です。

通常通り「歯科訪問診療(1)(初診患者)」を算定します。



訪問診療開始時刻を入力してください。と入力画面が表示されます。

時間は直接入力か、▼をクリックで表示された数字をクリックでも入力できます。

「OK」で次に進みます。

※　前回実施日などが令和２年１０月１日【5021001】と表示されている場合、【】の中がコード化の一部です。

【5=令和 02=2年　1001=１０月１日】を表現しております。修正する場合は例えば、令和２年９月１５日の場合

令和２年９月１５日【5020915】となります。

※　実施年月など日付が必要ない場合は 00 で表現します。　例：令和２年１０月【5021000】

次に訪問診療終了時刻を入力する画面が表示されますので、

同様に数値を入力するか、選択し「OK」で進みます。

次に訪問先を入力する画面になります。



訪問診療先名を入力してください。へ直接入力します。

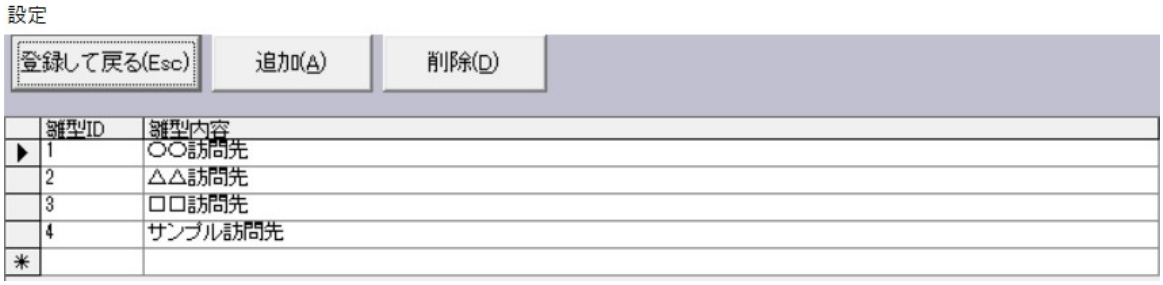
「サンプル訪問先」と入力しました。「OK」で先に進めます。

他にも画面右側に入力履歴があります。一度入力した内容は学習機能を搭載してありますので、

入力履歴に表示されてきます。

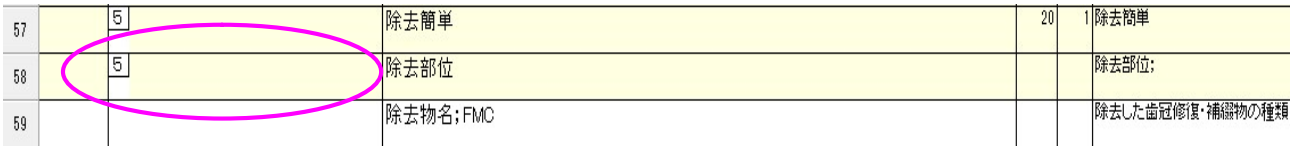
毎回入力せずとも入力履歴からダブルクリック、もしくは「←」で訪問診療訪問先名の部分へ表示できます。

また、「雛型の変更」で学習した内容を編集することもできます。



直接追加することや、不要になった内容を削除することができます。

部位記載が必要な場合は<u>カルテ画面の部位欄に</u>部位を入力していただければ、自動的にコード化されます。



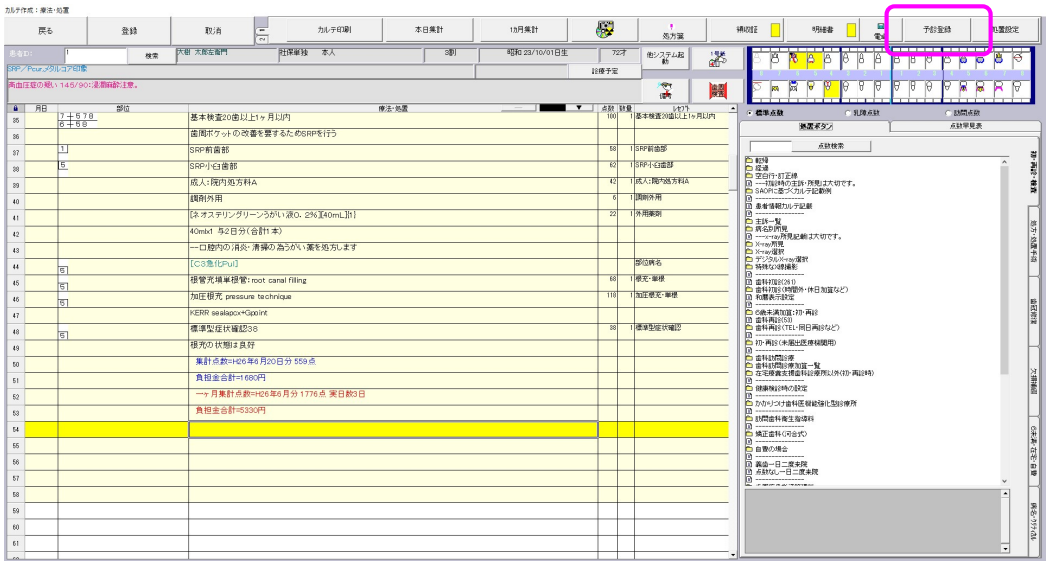
訪問先に限らず、連携医療機関や除去物など様々な内容がそれぞれの処置ごとに搭載されておりますので、

摘要欄コード化という医療機関側への負担が非常に大きい事態を少しでも軽減できることと思います。

※　カルテ入力後の修正はカルテ画面の文字を直接修正してください。

歯科矯正における開始日設定方法をご説明します。
「動的処置開始日」「マルチ開始日」「保定開始日」に係る算定時に開始日記載の必要があり、
システムで自動入力するために設定をしておくと便利です。

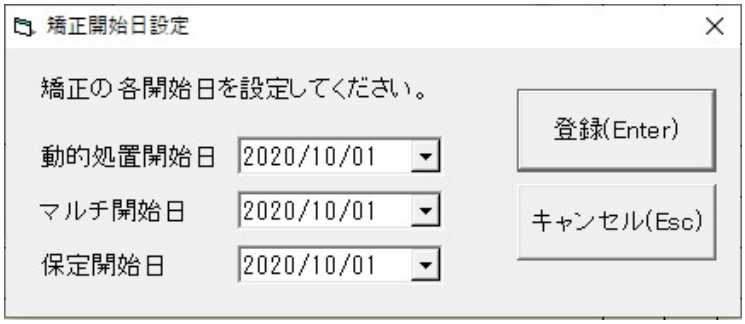
１，カルテ画面の「予診登録」をクリックします。



２，矯正登録開始日設定をクリックします。



３，直接数値入力か▼でカレンダーが表示されます。設定後「登録(Enter)」で完了です。



レセ電のための操作説明

レセ電では標準化をするために一定の入力方法が決められています。

---患者氏名登録(氏 名の入力と資格喪失患者の登録のみが変わります)----------

1. 氏名間に全角スペースが必要です。振り仮名にもスペースを入れてください。

大樹はレセ電用ファイル出力時には第二水準以外の氏名は自動的にカナ名に変換します。
カルテや領収書などには患者本来の氏名固有の漢字で印刷します。

※レセ電では『きざみ計算』の加算単位設定されている場合はきざみ記載が必要になります。
・IS 使用／人工呼吸／海路(往路・復路)／診療時間加算など
『加算』項目で『きざみ計算』がある場合に、加算数量を指定できるようになっております。
加算単位を[ ]内に記載します。記載ナシは最低単位をレセ電に自動記載します。
カルテ記載例:IS30 分を超えて 40 分の場合は[ ]内に[10 分]と記載します。
例1:IS30 分以上加算[10 分]　10×1 <----- [ ]内に使用単位をカルテに記載必要。
例2:IS30 分以上加算[31 分]　10×2 <----- [ ]内に使用単位をカルテに記載必要。
※単位記載ナシは最低単位をレセ電に自動記載します。
~~~~~~

2. レセ電では同じ点数でも算定する処置によりコードは異なります。

点数が同じといって安易な算定はご注意ください。点数には個々に算定する処置の名前が表示されています。標準ボタンにはすでに組み込んでありますのでご参考にして下さい。
レセ電では慣れるまで新しく処置のボタンを組み合わせするよりも標準ボタンを参考に内容の一部を変更するのがベストです。

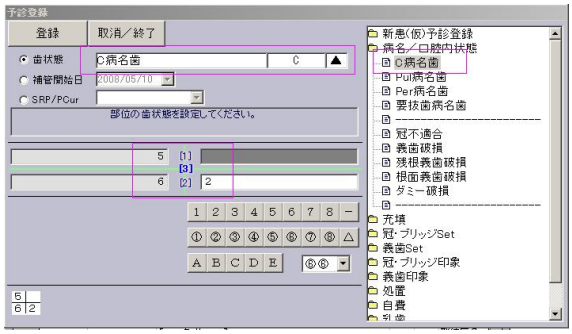
3. レセ電特有の算定方法　例:接着材料を算定して装着料の算定忘れの場合は
翌日に算定はできません。必ず接着材料算定日に挿入して同日処理してください。
カルテ上は挿入後に、翌日分に『算定忘れのため前日に計上』などとコメントして、
領収書を差換えてください。該当する場合は請求ファイル作成時にメッセージを表示します。
理由はレセ電コードの接着材料料には当日のみ装着料がセット可能なためです。
紙レセプトでは関係ありません。 チェックが表示されたら紙レセプトは関係ありませんが、
レセ電用請求ファイルで提出する場合はカルテ記載を修正して、
チェックが表示されない状態で、提出してください。
注！レセ電用『請求ファイル』作成時には請求点数のカルテ記載方法に問題がある場合は
メッセージを表示します、ご参考にしてカルテの算定点数を修正してください。

4. 紙レセプトもレセ電でもカルテ内容をレセプトに記載しないようにする場合は、
点数・数量を0にして『レセプト』欄も削除します。
~~~~~~

便利な機能のご紹介

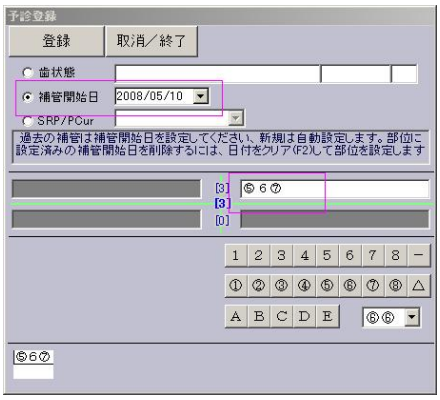
1. 予診登録　2. 補管日設定　3. SRP予定歯登録　4. 歯の治療履歴一覧表示

1. 予診登録（予診登録をしておくと除石の部位や欠損歯の入力に便利です。一度入力しておけば**大樹はその後の診療の内容を自動的に記載します**、**一号紙の歯式図は自動記載されます。**



←--C病名を登録するところです、『登録』を押して連続して他の病名や、歯状態を登録できます。登録が終われば『取消／終了』で完了です。

2. 新規導入時の『補管』の算定日の登録

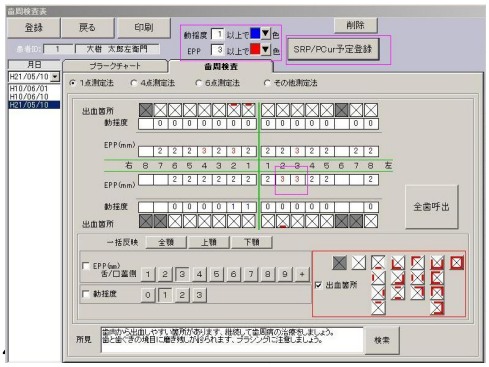


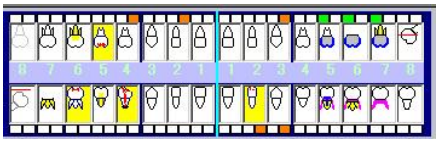
補管の時期はカルテ上で**補管を算定すれば システムが自動的に記載します。**

←*新規導入時はカルテ記載がないため補管算定日の手動登録が必要です。左の画面は新規導入時の手動入力方法のご案内です。*

登録すればチェックが有効になります。

3. 歯周検査表からSRP予定歯の登録





(**歯状態**の表示画面)

歯周基本検査で動揺度・EPPが設定値以上で文字色が変わります（任意の設定が可能）、二度目の歯周検査時に『SRP/Pcur 予診登録』を押すとカルテ画面の『歯状態』に**茶色でSRP予定部位**を表示します。**補管算定歯はグリーンで表示**します。

4. 歯の治療履歴一覧表示



歯のアイコンを右クリックするとその歯の過去の治療内容の履歴一覧を表示します。治療計画が立てやすく、患者さんからの『この歯を治療したのはいつ？』の質問にも迅速に回答できます。再着頻度の高い歯の場合など説明に有効利用できます。

部位の入力・病名の選択　カルテは部位・病名を入力してから、クリティカル Tab から処置を選択します。
部位の入力は部位を入力したい「部位」欄の空欄にカーソルを合わせてダブルクリックします。
①部位入力画面、部位欄クリックで数字が表示されます画面からでもキーボードからでも入力できます。
②523と入力しても235と部位自動識別変換機能を搭載しています。
病名を再診時に選択することは大切です。選択後「登録」ボタンでその病名にあった処置が表示される、
クリティカルパス機能を使用するからです。

クリティカル Tab 機能により病名を選択した場合、例えば「C2」病名の場合は「C2」で選択可能な処置が
自動表示され、処置内容は各医院により自由に付け加え、修正ができます。
ここでは練習に病名「C2」を選択して「登録」を押してください。
カルテ画面に戻り「部位」「病名」が表示され右 Tab は「C2」で選択可能な処置の一覧が表示されています。
黄色の「区分」には関連した「ボタン」＝処置が設定済でクリックすると開き再度クリックすると閉じます。

主訴・処置の選択
お好きな？「主訴」を選択して「決定」を押します。また処置はここではインレー形成・印象の処置を選択して
「決定」を押します。主訴の内容変更や主訴の種類の増設も簡単で、処置の設定も簡単にできます。
処置にカーソルを合わせるとカルテに転記する内容が表示されます。
項目にカーソルをあてると説明がポップアップされます。内容は「処置設定」で自由に変更できます。
本日分集計を押して「カルテ印刷」の「本日分印刷」で印刷プレビューで確認してください。
後日に印刷する場合は左側の行番号にカーソルを合わせて「Shift」キーを押しながら「↑」キーを押し
黒色反転させてから「カルテ印刷」で今度は「選択範囲印刷」を押します。
ご自分でいろいろ試みてください。

予診登録の説明　**予診登録はチェック機能の一部です。**
初診時にC／Pul／Per 病名歯など予診登録をしておくと診療する予定部位などが一目瞭然で良く解ります。
また、欠損歯／ダミー／残根歯など登録しておくと、除石や欠損補綴時に部位を自動的に表示します。
カルテ上で抜歯をした部位などは自動的に除石や欠損歯の部位に反映します。



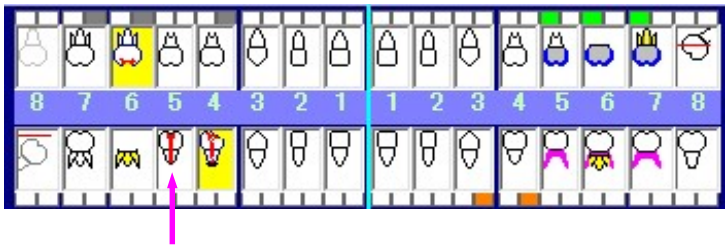
予診登録は一括登録や部位を１歯づつ個別に登録できます。
補管は冠の下部にグリーンで二年間表示してチェックに反映します。
特に8番の有無の登録をお忘れなく。

予診登録は Check の一部です、1. 欠損歯　2. 残根歯　3. ダミーだけは必ず！初診時に登録してください。

追加された機能　歯科は1口腔1初診のためカルテ1号紙の歯式図への口腔内所見の記載が面倒です。
初めて来院した患者の、最初の1回のみ予診登録（最初は概略を仮に登録しておくとより楽です、例：生／失活
歯など不明な場合は「冠」など）すれば、以後の処置を自動的に登録しますので、「歯状態」ボタンを押せばボタ
ン一つで詳細な処置内容の歯式図が簡単に完成します。P15～16を参考にしてください。

歯のアイコン活用法　履歴閲覧

予診登録は歯のアイコンを該当状況に一括で変更するのに便利です。一歯単位で変更する場合は、
該当部位の歯アイコンをダブルクリックで、該当状況に選択し「登録」で変更できます。
また、該当部位の歯アイコン上で右クリックしていただくと、治療の履歴であるカルテ内容が閲覧できます。



例：右下の5番の上で右クリックしていただくと。



治療履歴のある部位であれば、メインのカルテ画面とは別に上記のような画面で、履歴を閲覧できます。
治療の参考にしてください。

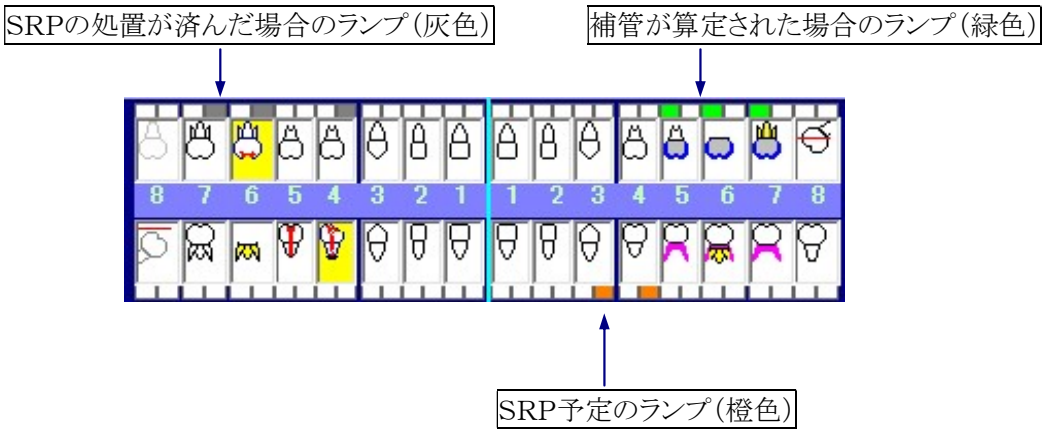
※　この画面から直接カルテへ入力はできませんので、「閉じる」で閉じていただき、メインカルテ画面で、
　　入力を続けてください。

※　導入当初は歯のアイコンを直接変更されることもあると思われます。この場合は、カルテ自体には
　　診療内容が記録されていませんので、履歴を閲覧することはできません。
　　治療が進むにつれ処置ごとにアイコンは自動で変化し、履歴も残りますので、便利になってきます。

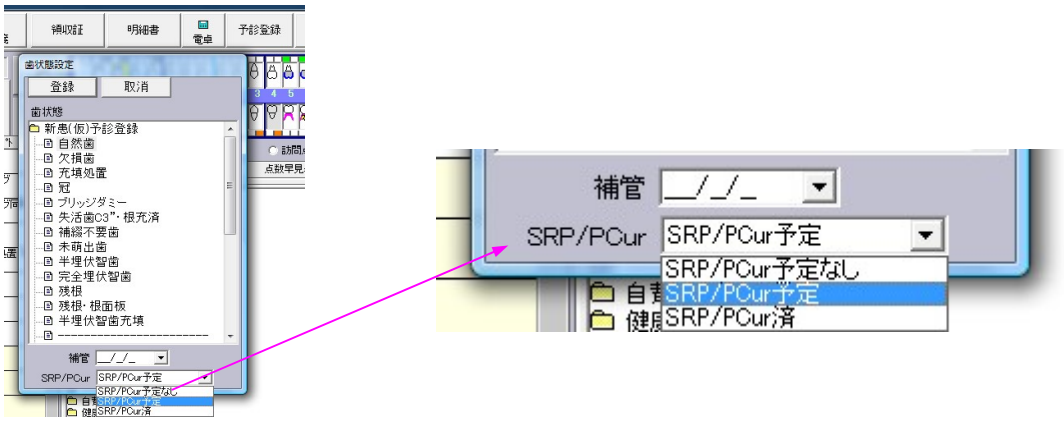
歯のアイコン活用法　SRPなどの管理

補管・SRPの管理など、一目で状況がわかります。

処置を選択することで自動的にランプが点灯します。また、途中からの入力など任意のタイミングで変更することも可能です。

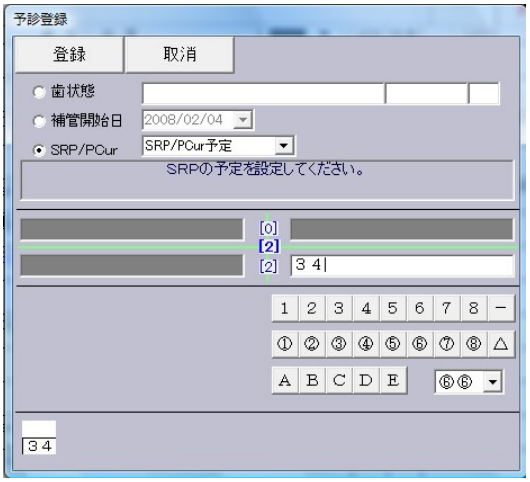


任意で変更する場合は、歯アイコンを直接クリックか、



予診登録で変更します。

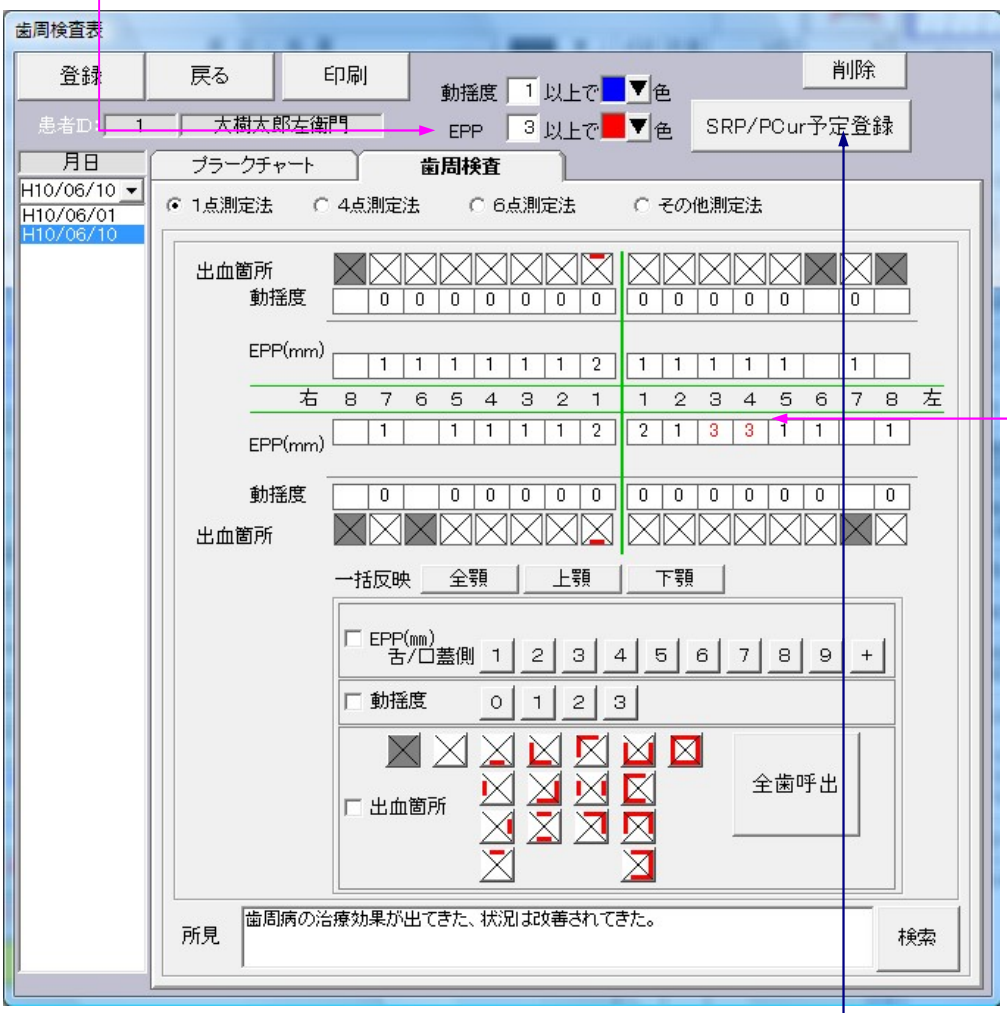
例：左下の3，4をSRP/Pcur 予定に登録します。



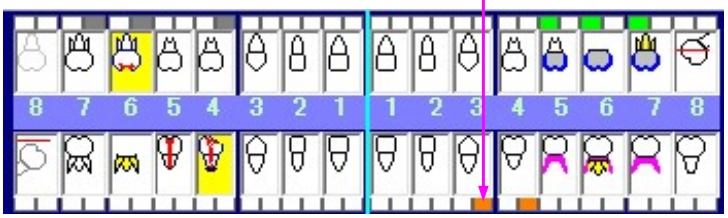
歯のアイコン活用法　SRPなどの管理

SRP/Pcur の予定は「歯周検査」からも入力できます。

歯周検査入力画面で EPP が深いところを一目で見やすいように「○mm 以上で赤」
などと設定できますが、設定した数値が入力された場合にその部位が自動的に
カルテ画面の歯アイコンに SRP/Pcur 予定として設定されます。
例:「3㎜以上の場合は赤」の設定で左下 3.4が該当した場合。



上記の状態で「SRP/Pcur 予定登録」をクリックしていただくと設定されますので、
カルテ画面でご確認ください。

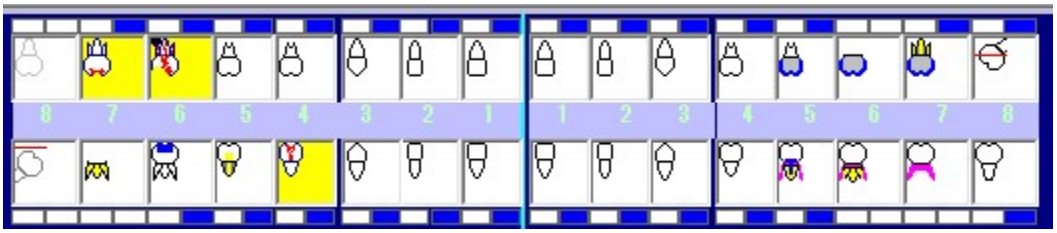


歯のアイコン活用法　スケーリング管理

カルテ画面でスケーリングを算定すると、部位入力画面が表示されます。



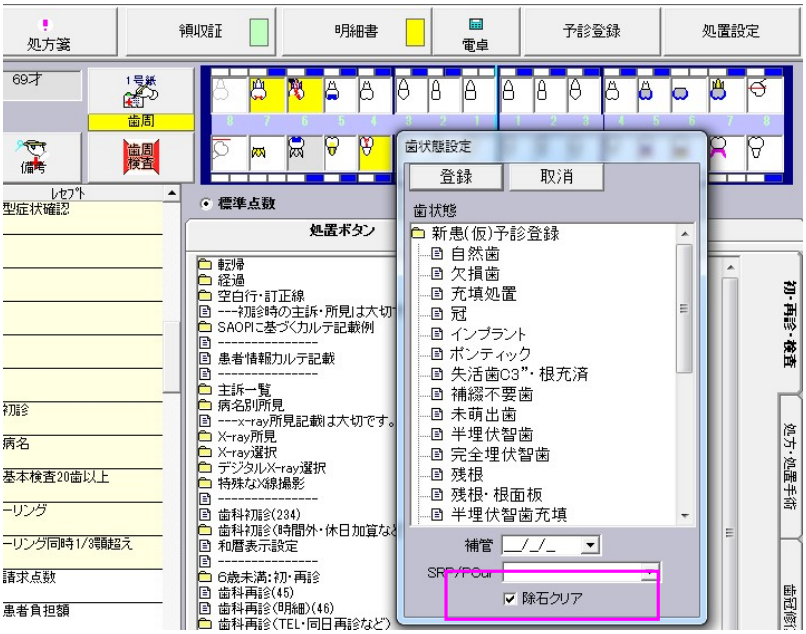
「登録」すると、指定した部位が歯のアイコンで青色ランプ点灯します。



取消や、修正する場合

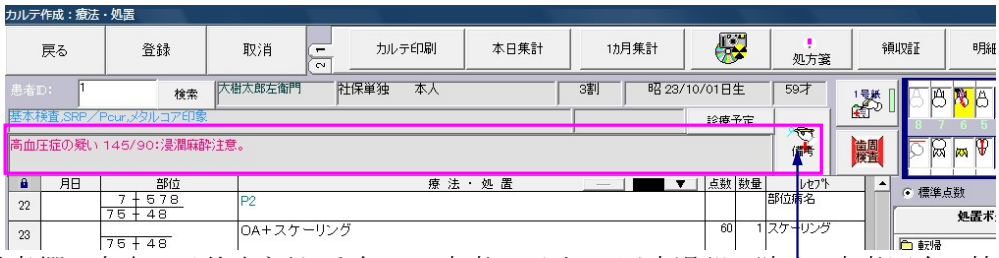
歯のアイコンを左クリックし「除石クリア」にチェックを入れ「登録」してください。青色ランプが消灯します。

一括で取消をする場合は「予診登録」をご活用ください。



備考欄について

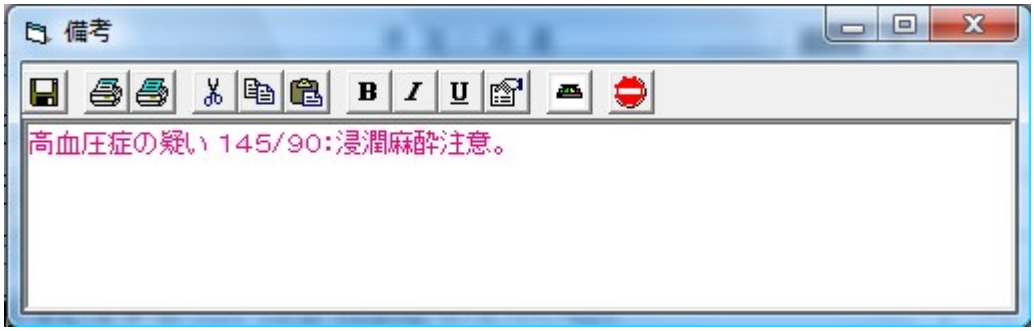
カルテ画面上部に備考欄への入力箇所があります。



備考欄の内容は予約表などでも個々の患者に反映し、医療過誤の防止、患者固有の情報など、様々な観点で役立ちます。また、独自のチェックとしても活用できます。

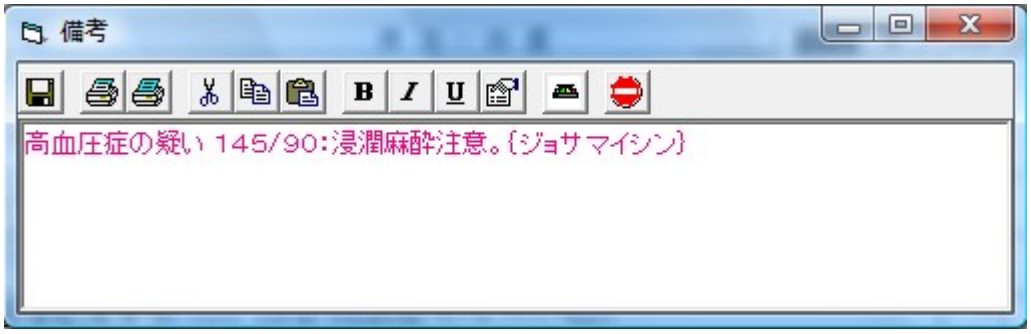
「備考」ボタンをクリックで

このような入力画面が出てきます。枠の大きさなども調節可能です。



また、文章中に{ }でくくっておいた内容は、処置を選択した際くくった文字が含まれる場合にチェックとしてコメントを表示されるよう設定できます。

例：ジョサマイシンを設定

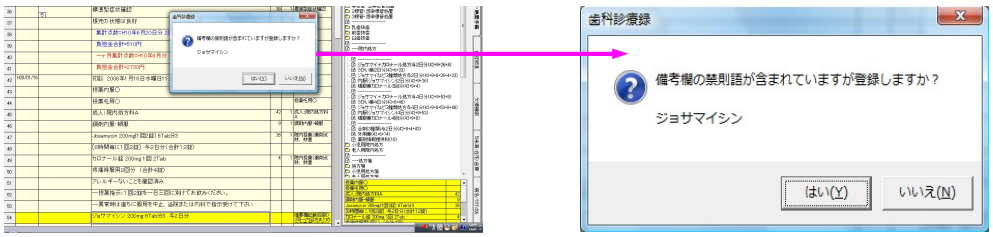


設定の仕方は、入力の段階で{ }を記載しても良いですし、入力されている内容を選択して、


ボタンをクリックでも{ }でくくられます。その後


で登録します。

設定された文字が含まれる処置内容を選択すると、このようなコメントが出てきます。



お知らせランプの説明「歯管・SPT の算定患者」の算定状況



『歯科疾患管理』患者の算定状態や算定可能を『自動的にランプの点灯』で知らせします。

■点灯なし→初診間で歯管が算定されていない場合

■緑 歯管 →歯管中（当月算定済）→歯管の算定患者であることを示します。

■橙 歯管 →歯管中（当月算定待ち）→算定すれば緑。 歯管 → 歯管

・『歯科疾患管理料』算定患者で、 次回の初診時には、
前回最終診療日を自動入力します。



歯周治療や SPT の算定状態や算定可能を『自動的にランプ点灯』で知らせします。

■点灯なし→歯周治療を行っていない。

・初診間に歯周基本検査や精密検査を行っていない。

■黄 歯周 →基本治療中。

・初診間に歯周基本検査や精密検査を行っているが、初診間にＳＰＴなし。

■緑 歯周 →ＳＰＴ中（当月算定済）

・初診間に『外科手術算定』で、初診間にＳＰＴがあり、当月ＳＰＴを算定済。

・初診間に『外科手術がなく』て、初診間にＳＰＴがあり、前回ＳＰＴを
算定してから４ヶ月経っていない時。

■橙 歯周 →ＳＰＴ中（当月算定待ち）

・初診間に『外科手術算定』で、
初診間にＳＰＴがあり、当月算定可能なＳＰＴをまだ算定していない。

・初診間に『外科手術算定がなく』て、
初診間にＳＰＴがあり、前回ＳＰＴを算定してから４ヶ月目以降である。

※ SRP の算定予定が橙なので（P9-C 参照）
『算定可能時期のものは、橙ランプ』で統一。

部位・病名の行を一括してコピー・貼り付ける方法。
処置に関してもそうですが「カルテ画面左端の行番」にカーソルを合わせマウスで反転選択します。複数行は下方にずらし選択します。選択したらマウス右クリックして表示される「コピー」を選択します。
貼り付けたい行にマウスを移動してマウス右クリックで表示される「貼り付け」で貼り付け完了です。
実際に練習してみてください、簡単に部位・病名が入力できます。
コピー貼り付けの時はチェックがかかりません抜歯後など再度部位をクリックして最新の状態を登録します。
部位だけコピー・貼り付け
入力済みの部位にカーソルを合わせマウス左クリックしたまま任意の位置までマウスでずらして手を離せばコピー貼り付けが簡単です。入力済み部位の削除は「空白」をコピー貼り付けすれば削除できます。

本日分集計を押すと本日分集計点数・負担金額が表示されます。
一ヶ月分集計も押して見てください。
カルテ内容削除の説明をします。左側の行番号にカーソルを合わせて、「Shift」キーを押しながら「↓ ↑」キーを押します。マウスで左クリックしながらの選択も出来ます。反転している状態 で↓ ↑キーを離してから Shift キーを離して「Del」キーで削除します。表示されるメッセージを参考に操作してください。
間違って入力した部位の削除の方法
部位コピー機能を使い、部位入力していない空欄をマウス右ボタンをクリックしたままでコピーしたい場所までカーソルを移動して離せば空欄がコピー貼り付けされて空欄になります。
カルテ印刷 「カルテ印刷」を押してください。
「本日分の印刷」を選択すれば診療当日のカルテのみ前回印刷したあとに続けて印刷します。
「選択範囲の印刷」は任意の印刷したい範囲の行番を Shift＋↓キーで選択、反転した行をのみ印刷できます。
印刷位置の設定表示されている画面の左上に「プリンタ設定」があります。クリックしてください。
使用するプリンタを選択します。印刷の位置の誤差は-1 または1で調節します。
一度設定すればプリンタを換えない限り設定は有効です。
簡単機能！歯科診療録はカルテ・レセプトなどすべての印刷項目に印刷プレビュー機能を搭載しています。
いつでも内容を確かめてから印刷ができます、ご使用に慣れるまでは頻繁に確かめてください。

「備考」欄の説明高血圧症などの有病者の患者の既往歴を記載したり、神経質な患者に対する注意事項なども記載します。カルテには二行分の印刷ができます。公開したくない患者情報の場合は二行目以降に記入し別紙に印刷します。受付は次回予定と備考欄の情報を参考に次回予約に役立てることができます。
「備考」ボタンをクリックすると画面が表示され、右下の角をマウスで操作すると自由に大きさを変えられます。
また枠の上をマウスで操作して位置も自由に動かせます。この設定はすべてのカルテに反映されます。

「部位欄の補足説明」歯周病などで全顎の歯式の場合枠に収まらない場合があります。
カルテ上部の「部位」の部分をクリックすると枠が拡大します。もう一度「部位」の部分をクリックすると戻ります。
追加された機能 初診から使用した病名に対する部位を自動的に呼び出します。P13参照してください。
カルテに空白行を追加する場合は挿入場所の行番号をクリックして黒色反転の状態で「Ins」キーを押します。

カルテに直接入力 カルテ内容はワープロのように入力でき、珍しい症例は「点数早見表」から直接選択できますが、通常は処置ボタンから選択してください。印刷された点数早見表に準拠しています。

日常あまり使用しない病名や症例の入力

珍しい病名 部位入力画面で直接病名を入力すると、下段にレセプトに印刷される病名が表示されます。

珍しい処置 Tab の「点数早見表」欄から選択します。日常あまり使用しない症例の場合はここから選択します。点数早見表に準じていますが、基本的には処置ボタンから選択してください。

カルテの文字色を変更する場合 現在黒色で表示されている■の横にある▼をクリックすると配色画面が表示されます。自由に文字色を選択できます。カルテの文字を選択して(文字色を反転)■をクリックすると変更できます。必要に応じてカルテ入力文字色を選択してください。

「本日分集計」「一ヶ月分集計」の文字色はデフォルトです。手動で都度選択して変更も可能です。

Tab の説明 Tab 名に関連のある処置設定が設定されています。

通常は病名選択で開くクリティカル Tab から処置を選択します。

病名クリティカル Tab は▼で病名に関連した処置設定を呼び出します。

診療予定の設定

診療予定は予約表でスタッフや受付がカルテを開かなくても診療予定が把握できるように開発されました。

院内 LAN では予約表と共に必須の機能です。

カルテ画面や予約表から「診療予定」で選択式に設定でき、メモも自由に記載できます。

診療予定の選択項目はユーザー設定も可能です。「雛形の変更」から選択項目の追加ができます。

内容は自由に設定でき、既に患者さんに記載されている「診療予定」への影響はありません。

追加は「追加」を押して重複しない予定 ID を入力し、予定の内容を入力後「戻る」で選択項目に追加されます。

摘要欄への入力

Ⅰ摘要欄へ「部位＋適応」の記載をする場合の方法

①「部位」を入力後 Tab から「摘要　記載の仕方」を選択します。

②「摘要　記載の仕方、ここを自由に替えます。」をたとえば「残根上義歯」と直します。

③レセプトで、適応欄へ「部位＋適応記載」の確認をします。

5 残根上義歯。　←このように記載されます。レセプト印刷プレビューで確認してください。

5 一歯二窩洞(O)(B)←このように記載されます。レセプト印刷プレビューで確認してください。

Ⅱ摘要欄へ「部位・病名」の変更を記載する場合の方法。

先月提出済みのレセプトで今月「部位・病名」等を訂正する場合の方法。

例: 6 Pul を 6 Per に訂正したい場合のレセプト適応欄への記載方法を説明します。

1. カルテに変更前の部位・処置を入力して、同じ行に Tab から「摘要　記載の仕方」を選択後に書き換えます。

以下の状態が表示されます。レセプト印刷プレビューで確認してください。

6 と部位入力します、そして療法・処置欄)へ Tab から「摘要　記載の仕方、ここを自由に替えます。」を

例:「Pul 先月の部位・病名変更」と直します。

誤入力防止のロック機能 過去のカルテを誤って変更しないためのロック機能です。

解除はカルテ画面月日の横の「カギ」をクリックしてロックを解除します。

2. カルテの行を変えて訂正する部位を入力します。

6 と部位入力して Tab から「摘要　記載の仕方・・・」を選択して内容を書き換えます。

例:「Perと訂正。」です。レセプトには以下の印刷がされます。印刷プレビューで確かめてください。

3. 上記の結果「レセプト摘要欄」は、

6 Pul 先月の部位・病名変更 6 Per と訂正。　←このように記載されます。

4. レセプト印刷プレビューで確認してください。

ヒント！最初に「変更前の部位」を入力・Tab から「摘要　記載の仕方」を選択して内容を変更。

行を変えて、「変更後の部位」を入力・Tab から「摘要　記載の仕方」を選択、内容を変更します。

内容のみ記載する場合。①Tab から「摘要　記載の仕方」を選択します。

②「摘要　記載の仕方、ここを自由に替えます。」をたとえば「パノラマ前撮影済み口内法 X-ray」と直します。

Tab 内に「摘要欄コメント」サンプルを用意していますが、ユーザーは自由に登録。変更できます。

成人歯科検診などで初診料の算定がナシの場合入力方法

①初・再診 Tab の「健康検診時の設定」から選択してください。

②再診の場合も同様に算定してください。

③初診時に検診の場合は「健康検診時の設定」から必ず入力して下さい、

レセプト発行時に開始日が印刷されません。

一日二度来院の入力方法

義歯の修理などで一日に二度来院する場合が有ります。

当該患者のカルテを開けば自動的にメッセージを表示します。

①一回目では通常通り「本日分集計」をします。

②2 回目の来院は「本日分集計」をクリック後に、手動で差し引きの点数・窓口負担金を修正します。

老人の場合の「窓口負担金」にご注意下さい、一日に一回のみ徴収ですから案内をしてから自動削除します。

保険証の変更後の修正

患者の申告が遅く、変更日がもっと前でしたので前回の診療をさかのぼって変更したい。

①「保険証変更」で「登録開始日」を修正したい日付に変更します。既にカルテを入力している場合は

保険証変更後、再度「本日分集計」をする必要があります。レセプト印刷プレビューで確認して下さい。

カルテ入力前であれば保険証を変更して変更履歴を変更すれば当月ならば二枚にレセプト印刷します。

保険証の変更の場合保険証変更後、患者のカルテを開けばカルテに「変更した日付」を自動入力します。

先月受診で今月初診の場合当該患者のカルテを開けばカルテに「先月受診した日付」を自動入力します。

初診が成人歯科検診の場合「健康検診時の設定」などから

初診・再診を選択すれば、次回の再診時には、当該患者のカルテを開けば自動入力します。

歯科診療録は 印刷プレビュー機能を搭載しています。

簡単にレセプト内容を確かめることが出来ます、ご使用に慣れるまでは頻繁に確かめてください。

----------患者情報登録に関してのご注意。

①新患登録時に患者名の姓名の間にスペースを入れてください。例:〇大樹　太郎→×大樹太郎

②保険証の記号にスペースを入れない。例:〇松いろ→×松　いろ

支払基金の読み取りで読めない時が有ります。(すべてではありません)

部位入力画面の補足説明



例：歯周病名には関連する病名が格納されています。
クリックするとカルテに転記します。

初診～初診で使用された病名を表示しています。
クリックすると直近の部位を自動表示します。

最近使用した病名の一覧です。クリックするとカルテに転記します。
使用すると表示順が上に上がって表示されていきます。

一覧にない、珍しい病名などは直接入力します。
下段の「レセプト病名」には印字される病名略称などが表示されています。

病名クリティカル Tab の年齢絞込み機能

カルテ画面で「病名クリティカル」Tab には(老)年齢による絞込み機能がついています。

老人／成人の固有なボタンを年齢に応じて自動的に非／表示します。チェックを外せばすべて表示します。

ブリッジ適応診断の操作方法

ブリッジ適応診断は次の二つの確認方法があります。

１、欠損歯から適応となる設計例を検索する。

２，考えているブリッジの設計が正しいか判定する。

操作方法はそれぞれ次のようになります。

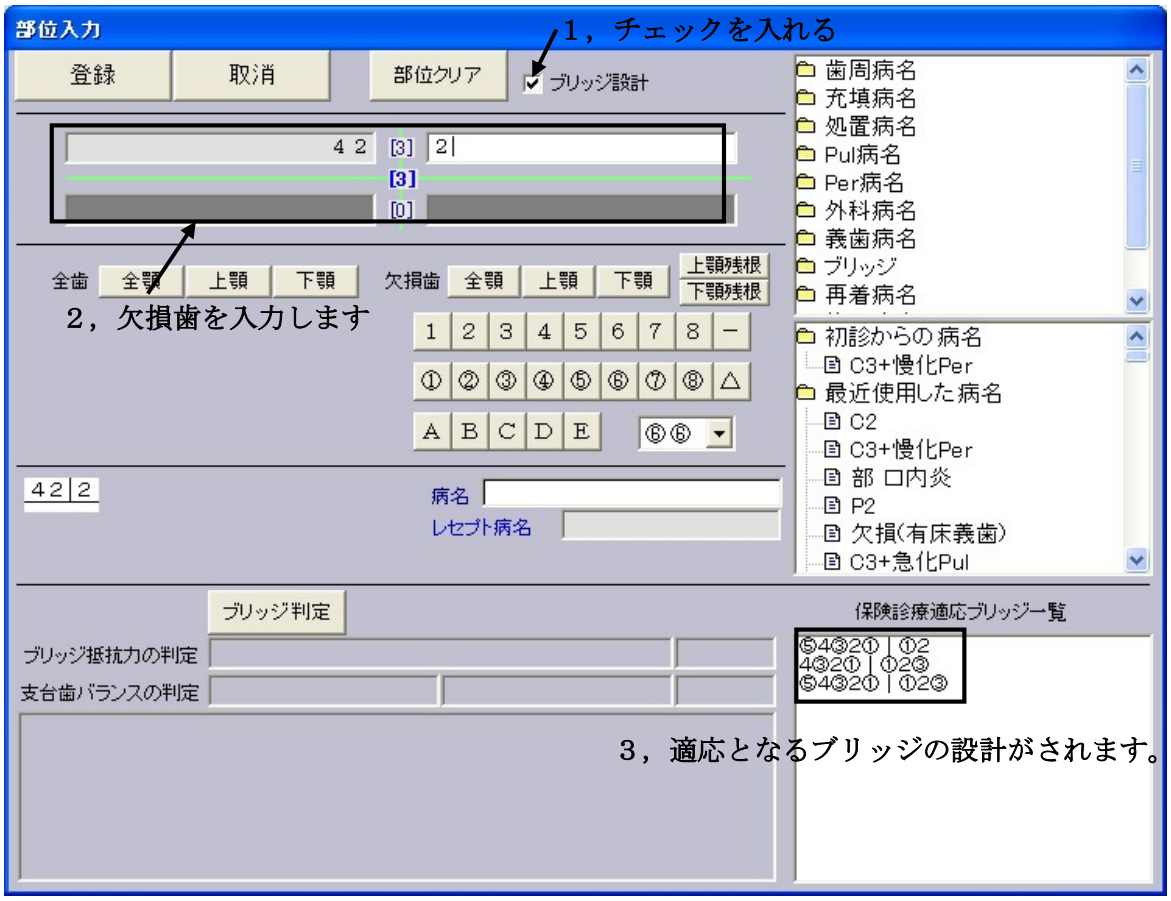
欠損歯から適応となる設計例を表示する

１，部位入力画面で「ブリッジ設計」にチェックを入れます。

２，欠損歯を入力します。

３，「保健適応ブリッジ一覧」に適応となる設計が表示されます。

４、実際に行う設計をクリックすると、歯式入力部に反映されます。



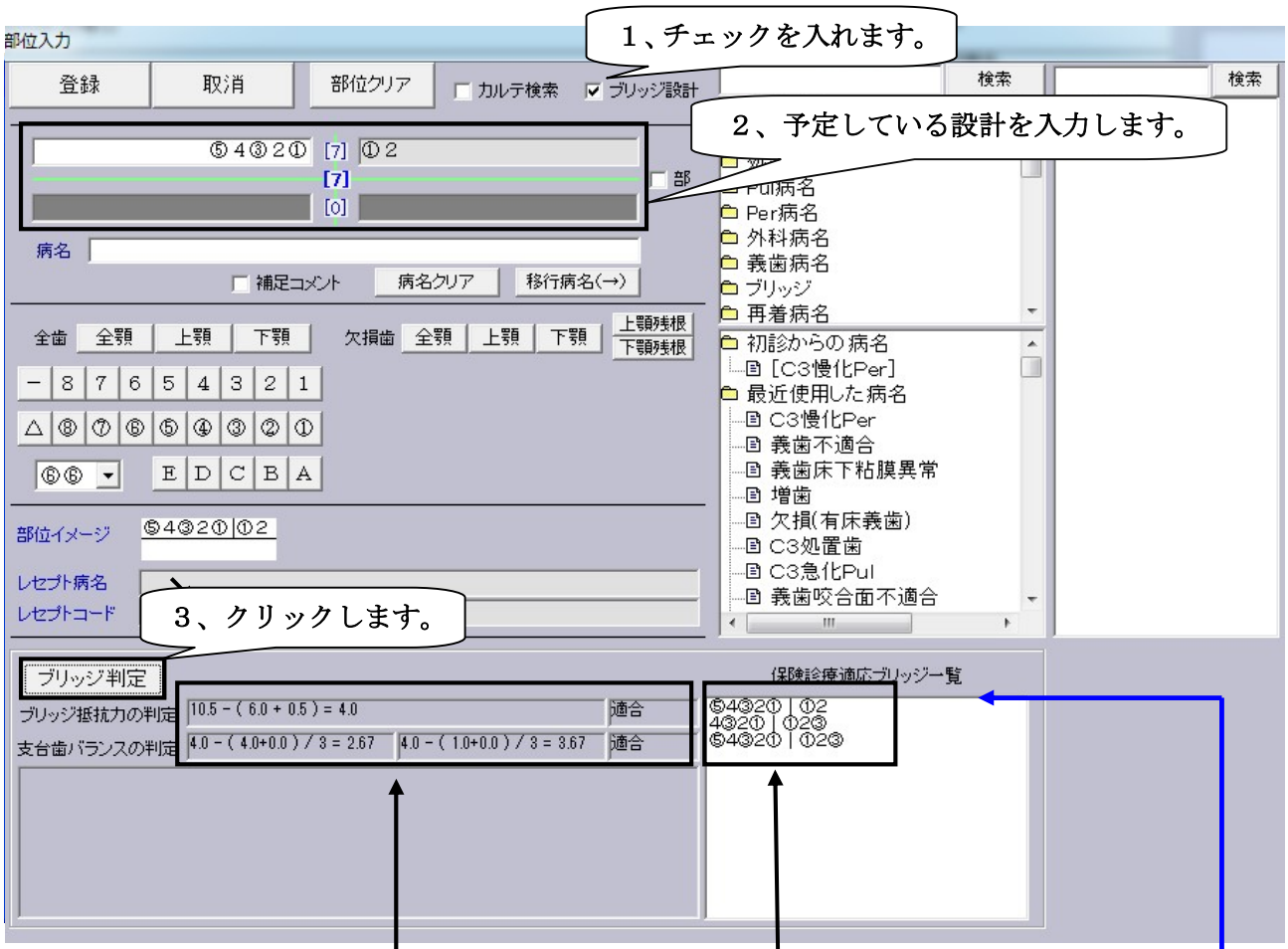
設計が正しいか判定する

1，部位入力画面で「ブリッジ設計」にチェックを入れます。

2，予定している設計を入力します。

3，「ブリッジ判定」ボタンをクリックします。

4，設計の適否及びその根拠が示されます。また、欠損歯に対応する設計も表示されます。



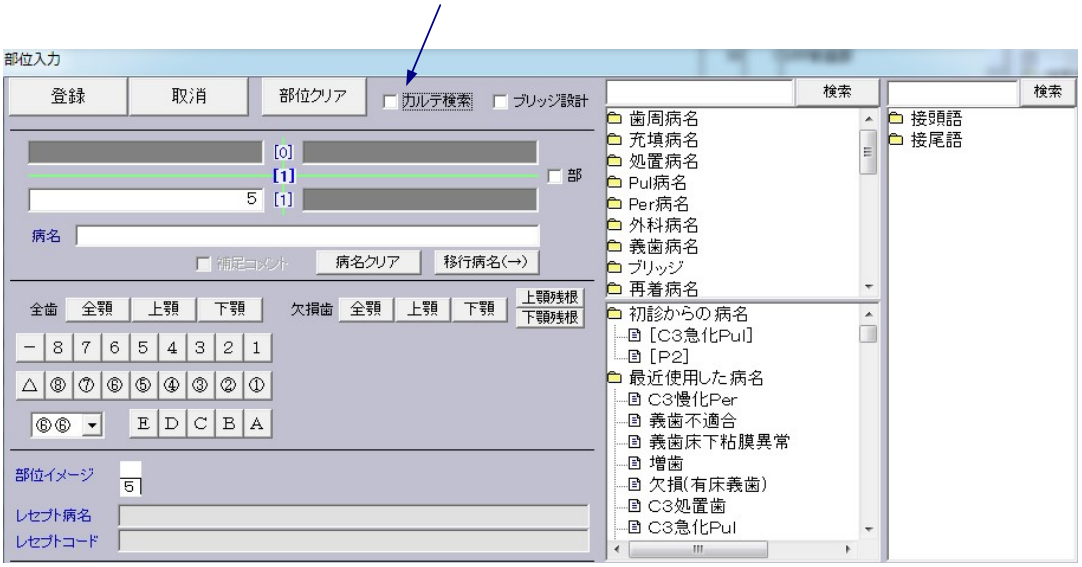
また表示された適応例をクリックしても自動的に判定表示されます。

カルテ検索の操作方法

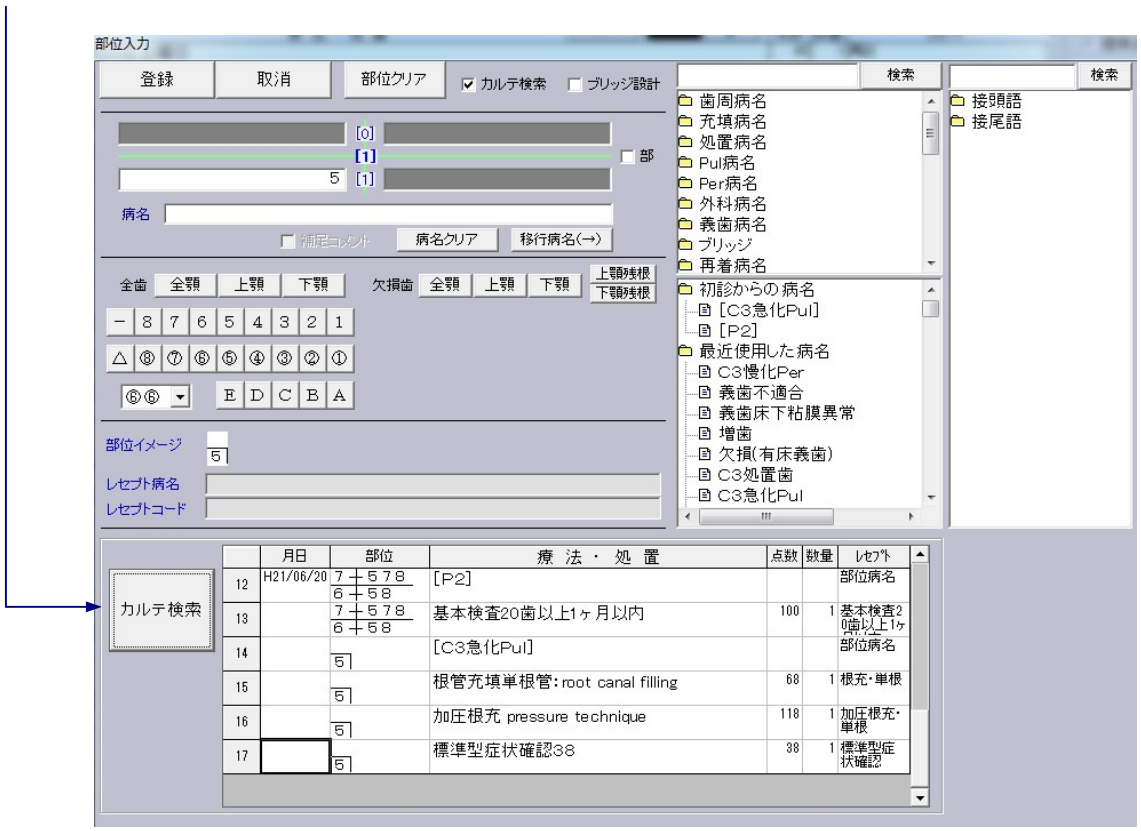
カルテ検索機能を使い、**同一部位**を過去のカルテから検索します。

１歯単位でも複数歯の歯式でも検索可能です。

①カルテ画面で部位入力画面を呼び出し、「カルテ検索」にチェックを入れます。



②「カルテ検索」をクリックで過去のカルテが閲覧できます。



注）検索する部位が含まれる歯式をすべて表示します。

直近の部位の自動表示とは

部位病名入力の際に、その患者さんに対して同じ部位病名を使用する時、入力を楽にするものです。

（同じ病名で別の部位の場合は、手動で部位入力に別の部位を入力してください。）

例えば、前日に 6 C3＋急化 Per を登録、処置したとします。そして、後日続きの処置をする場合、

再び 6 C3＋急化 Per を入力するわけですが、「初診からの病名」に C3＋急化 Per が表示されるので、

それをクリックすると部位の部分に自動的に前回の部位／病名 6 C3＋急化 Per がセットされます。

これにより病名クリティカル Tab が開かれ、入力がスムーズに行えます。

また、選択した処置に対するチェックはありましたが、病名の選択チェック機能も追加されましたので、入力ミスの防止に役立ちます。（例：欠損歯に対して「Per 病名を選択」した場合などにチェック）

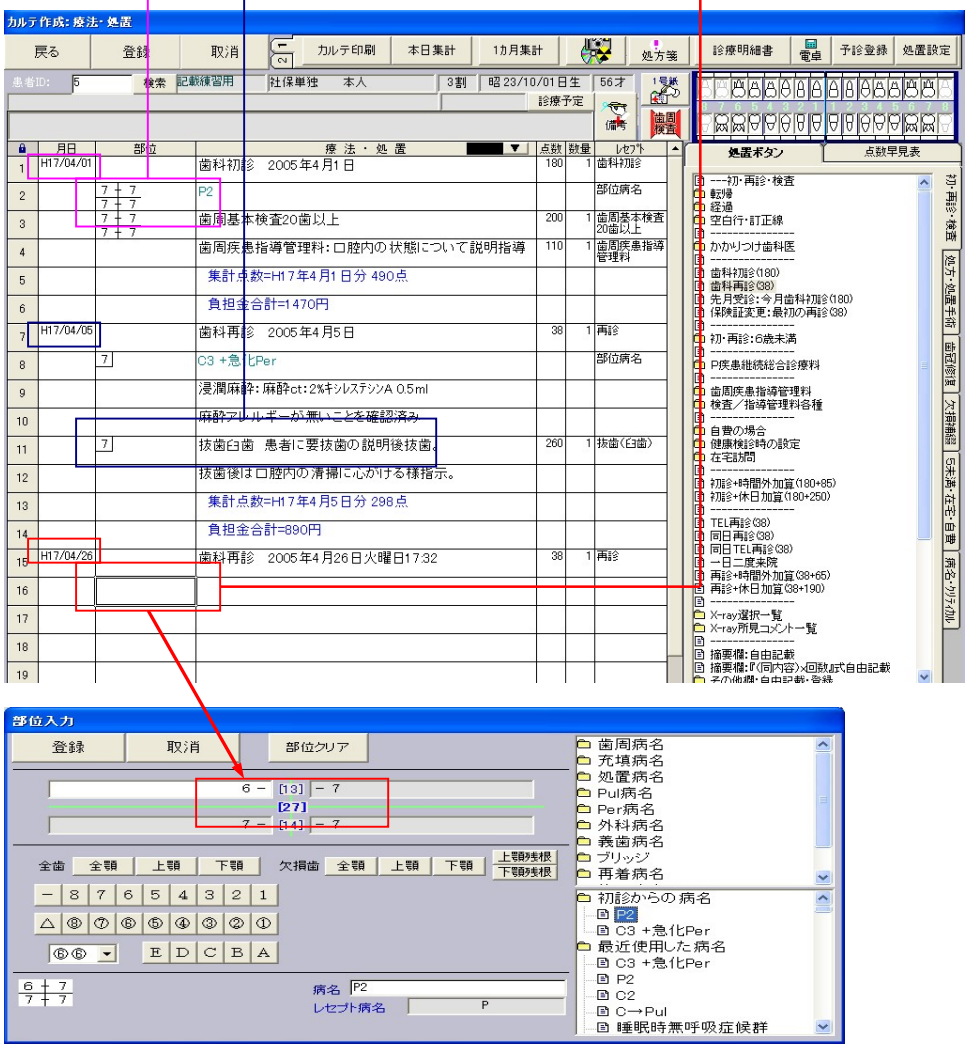
部位自動表示機能の補足

「初診からの病名」から「P 病名を選択した場合」ですが、

前回抜歯していた場合に自動的に P 歯式から該当部位を除外します。

例：７－７で７を前回抜歯していれば、今回は６－７を自動表示します。これにより、

手動で変更する必要は無くなりました。



カルテ訂正のための取消し線の使い方

例：X_Ray 標準型症状確認を X_Ray 標準型症状確認（デジタル）に訂正します。

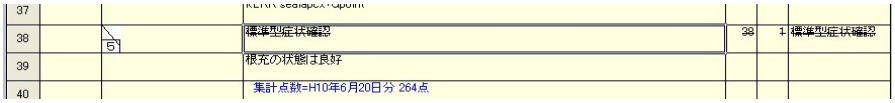
① まず、過去の内容を変更するにはカルテ画面左上の  をクリックします。
アイコンが  に変わり、変更が可能になります。

② 該当する行を選択します。（行を選択するにはカルテ画面左に上から並んでいる数字の部分をクリックしてください。）
（複数行選択するには「Shift+↓ ↑」or マウス左クリックを押しながら上下に移動）



③ 行を選択し、マウス右クリックでメニューが表示されます。

④ メニューの中の「取消線」を選択すると、取消し線が入ります。



⑤ 取消された次の行に「デジタル X 線標準型確認」を算定します。



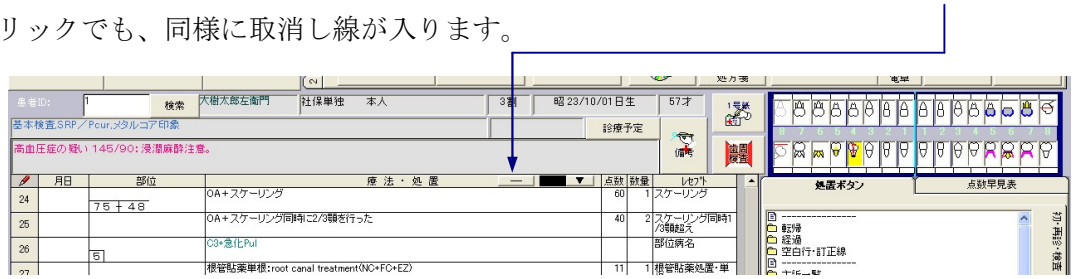
⑥ 訂正後、過去に集計された集計点数部分を選択し、「本日集計」をクリックしてください。
次に、過去の１ヶ月分集計を選択し、「１ヶ月分集計」をクリックしてください。



「本日集計」は集計だけでなく、データとしての認識も含まれますので、
過去の内容であっても、当日の内容であっても、変更した場合は集計し直してください。

※1：取消線を取消す場合は、①～④の手順で、再度「取消線」を選択すれば消えます。

※2：③のようにメニュー画面を出さなくとも、行を選択後、カルテ画面上部の「－」のアイコンをクリックでも、同様に取消し線が入ります。



過去のカルテ内容変更に伴う印刷位置シンクロ機能

機能概要

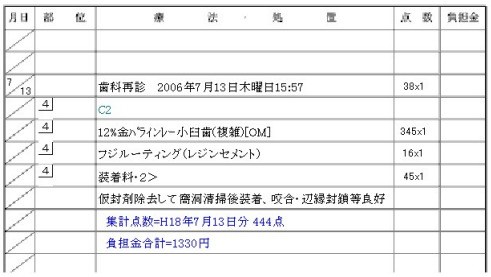
　過去のカルテを修正すると印刷したカルテとパソコンのカルテの行数に差が出てしまいます。これを補正し、修正後のカルテ印刷時に印字の重なりや、空行を作らないようにします。

操作方法

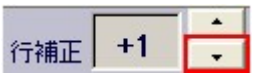
ここで補正する行数を設定します。

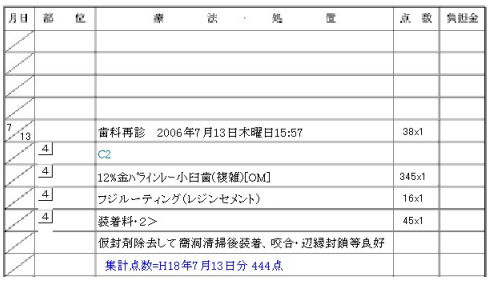






印刷位置が上がります。
修正時行を挿入した場合こちらです。





印刷位置が下がります。
修正時に行を削除した場合こちらです。

点数からの入力

点数絞り込み検索機能

機能概要

処置設定でボタンを作っていない処置を行ったとき、カルテ入力は点数早見表から行うことができます。
その際に点数から処置等を検索する機能です。（点数改定前の点数にも対応しています。）

操作方法



1、カルテ入力画面で「点数早見表」のタブを選択します。

2、点数を入力し「Enter」もしくは「点数絞込」ボタンを押します。



3、下に入力した点数に合致する処置等が絞り込まれ、表示されます。

4、処置等をダブルクリックでカルテに記載されます。

5，引き続き他の処置等も入力する場合、「解除」後上記操作を繰り返して下さい。

過去のカルテを点数から入力する場合



過去の点数表からも入力もできます。
右の「▼」をクリックし、年を選択します。
下の点数早見表が過去のものに変わります。
以後の操作は上記と同様にできます。

~~~~~~

診療所独自のカルテ内容の登録

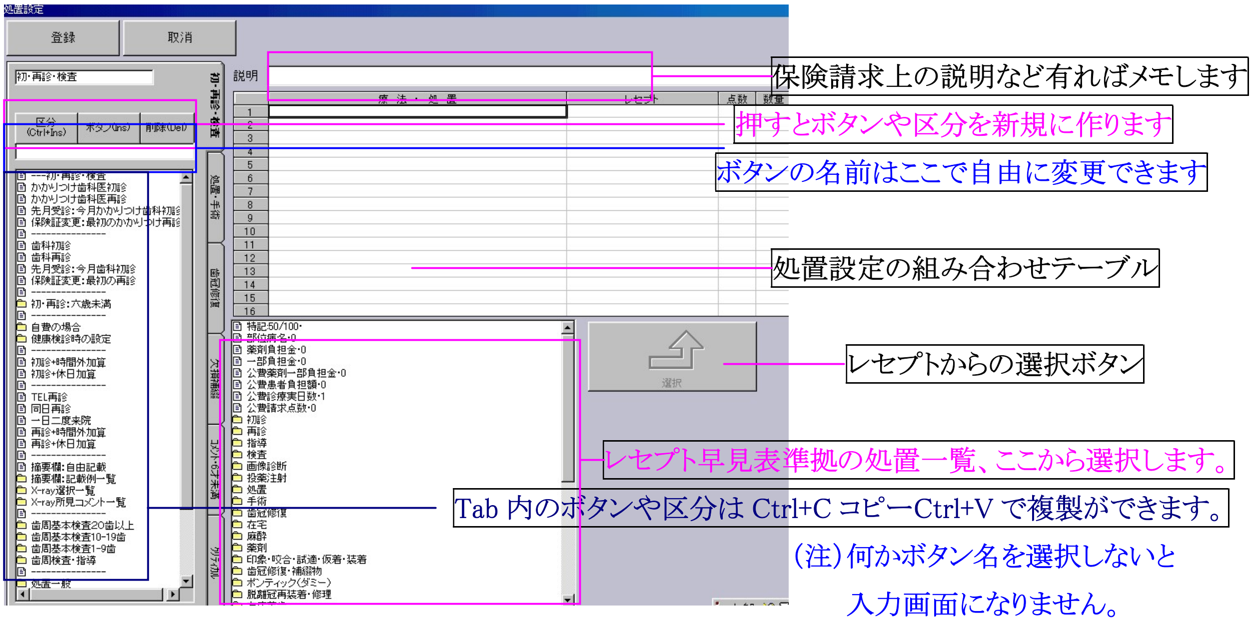
1．一定のパターンを登録しておく処置設定 Stamp の作成方法

~~~~~~

簡単な Stamp 作成方法＝処置設定の登録･変更方法 P29で詳しく説明します。

カルテ画面右上の「処置設定」から処置設定画面を開き、ボタン名を「追加」します。
「ボタン（Ins）」を押すと「新規ボタン」が追加されます。名前を自由に変更してください。
「説明」欄はカルテ画面で表示したい説明入力します。カルテ入力時に選択処置の保険請求注意事項など、ボタン内容に関する説明のガイダンスを表示できます。また既存のボタン内容を各医院独自の仕様に変更するには、以下の手順が便利です。Default を保存してから変更すると失敗したときに役立ちます。
Tab の変更したいボタンまたは区分を選択して Ctrl+C 続いて Ctrl+V を押すとコピー貼り付けできます。
変更したい Tab のボタンをクリックすると組み合わせテーブルに内容を表示します。
組み合わせテーブルで内容を変更します。処置の追加はレセプト処置テーブルから追加します。
（注！）療法･処置欄や点数･数量を記載しますが、数量は1にしてください。
1歯2窩洞などは数量1で、複数設定します。チェックの関係で数量は1にしてください。
行全体をコピー貼り付けするには行番号をクリックしてマウス操作で必要な行数を選択（黒色反転）します。
Ctrl+C でコピーCtrl+V で貼り付けます。その後変更してください。必要に応じて説明に保険請求上の説明など、記載してください。以上の要領で他の設定も簡単に追加･変更が出来ます。

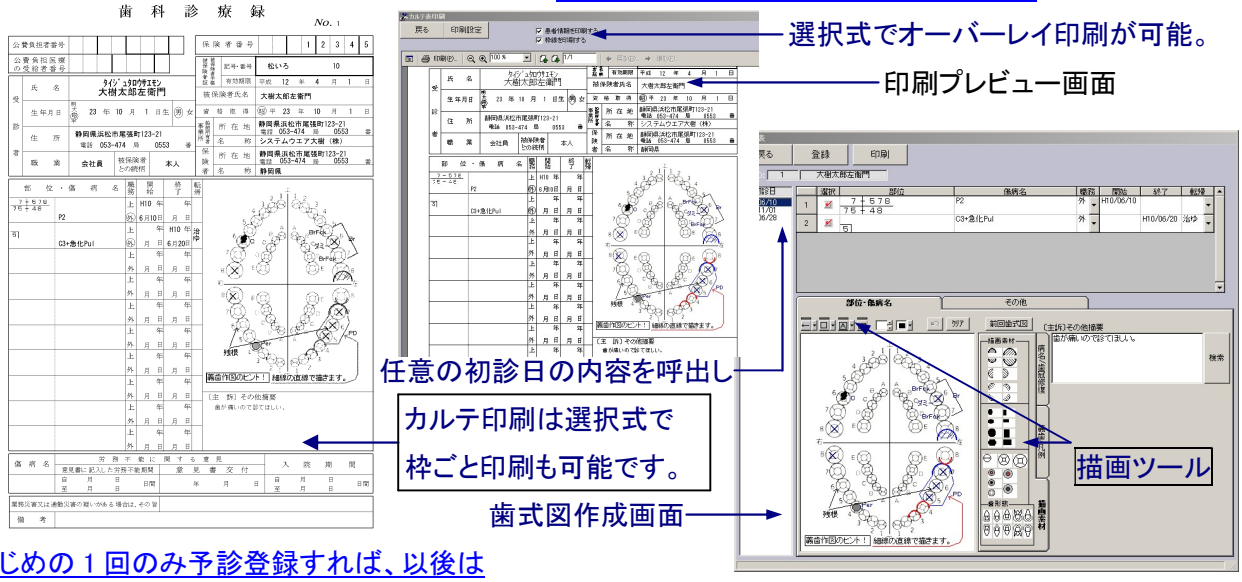
（注！）初･再診などのの@@yyyy 年 m 月 d 日 aaaa.hh:mm@@は絶対に削除しないで下さい。
　　カルテ画面で入力後には削除可能です。



~~~~~~~~~~~~~~~歯科は1口腔1初診のためカルテ1号紙の歯式図への口腔内所見の記載が面倒です。

カルテ１号紙の入力　カルテ１号紙表の諸項目の記載や歯式図の描画などに対応しています。

部位・傷病名や開始日などカルテ内容を自動転記します。「治ゆ」などカルテの転帰を自動的に反映します。
面倒な初診時の口腔内所見の歯式図も前回初診時の内容を呼び出し、自由に部分的な再描画や
内容の変更を可能にしました。カルテ１号紙作成時間の大幅な短縮を実現しました。
カルテ１号紙表の印刷は印刷済みカルテまたは、枠線も印刷するオーバーレイ印刷の選択が可能です。



はじめの１回のみ予診登録すれば、以後は
自動的に詳細な内容を登録していきます。また任意の箇所を削除して自由に再描画できる機能で、
初診時のカルテ１号紙表は口腔内所見の記載時間を大幅に短縮できました。
義歯外形線などは前回の歯式図を呼び出してから、「歯状態」ボタンを押せば、今回の初診時へ変更でき、
義歯の外形線、いつでも一緒です。描画のたびに変わりません！変更も自由です。

1. **過去の初診の部位・傷病名や歯式図が、いつでもすぐに閲覧でき診断に役立ちます。**
2. 主訴はワープロのように直接入力でき、定型文の選択や、定型文内容の変更・追加も簡単です。
3. 前回の初診の歯式図を有効利用
   前回の歯式図を呼び出し今回の初診時の内容を追加／削除するだけで、
   内容のある口腔所見の歯式図が短い時間で簡単に完成します。
4. **保存された登録済みの歯式図を、後日再描画を可能にする機能を開発しました。**
   消しゴムツールで修正部分を消して、再描画が簡単に行えます。
5. **義歯の外形など簡単に美しく描画可能。**
   例：細い線種で直線ツールを使用すれば、短い時間で簡単にかつ、美しく描画できます。
   線種は４種類用意され、線の色や太さも自由に変更でき、囲み文字／枠なし文字や楕円／方形など
   枠線色や塗りつぶしなど用意しました。
6. **部位・傷病名や開始日などカルテから自動的に転記されます。「治ゆ」なども自動的に反映します。**
7. **オーバーレイ印刷が可能。**
   １号紙表は印刷済みカルテや直接白紙に枠線ごと印刷もでき、一号紙表の両面印刷も可能です。
8. **描画ツールをマウスクリックして歯式図に反映すれば、より速く内容のあるカルテが作成できます。**
~~~~~~~~~~~~~~~

＜重要！＞　歯科カルテの最大の問題点！カルテ1号紙表の歯式図の作成を解決しました！

歯科は1口腔1初診のため、初診時の口腔内所見は例：冠／充填物など各歯牙ごとの記載が必要で面倒です。

・カルテ１号紙表の諸項目に対応、歯式図も自由描画／再描画機能を開発、オーバーレイ印刷も対応します。

・1号紙には自動的に、部位・傷病名／開始日・終了日／転帰などカルテ内容を転記／表示／印刷します。

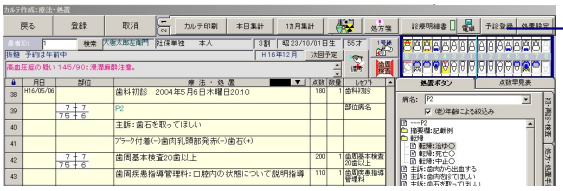
・最初の1回の予診登録で口腔内所見は診療内容に応じて自動作成、○×▲等記号も自動記載。

・前回初診時の口腔内所見の歯式図を呼び出し、今回初診時の内容に簡単に再修正／登録も可能にしました。

＜カルテ1号紙の作成手順＞

1. 該当患者のカルテから口腔内所見を「予診登録」画面で登録します。
   生／失活歯など不明な場合は「新患(仮)予診登録」から仮に「冠」と登録します。
   インレーなど判れば「充填」からインレーを登録しておきます。**複数の部位の一括登録が便利です。**
2. **最初の1回のみの登録で後は診療内容に応じて詳細な処置に自動登録**していきます。
3. **ボタン一つでカルテ内容の取り込み完了。**描画の追加も自由です。

義歯の外形線、いつでも一緒です。描画のたびに変わりません！変更も自由です。



予診登録　画面

（ｉ）カルテ画面の[予診登録]ボタンを押す。

（ⅱ）予診登録画面で、最初の1回のみ予診登録します。

・「新患(仮)予診登録」おおよその登録をする時に使用します。

例：生／失活歯が不明な場合は取りあえず「冠」を登録。

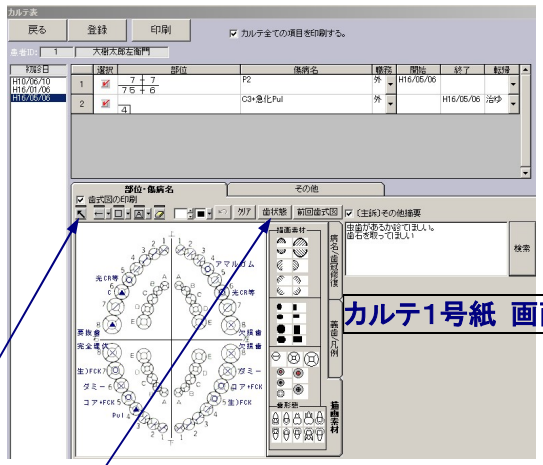
インレーなど解る場合は「充填」フォルダから「インレー」を登録。

・「病名／口腔内状態」C／Pul／要抜歯など予診を登録します。

・「充填」インレーや光CRなど判明していれば詳細を登録します。

・「冠・ブリッジ Set」FCKや前装鋳造冠など治療内容を
自動的に登録します。最初は「冠」登録で診療に応じて自動修正。

・「義歯 Set」義歯／残根上義歯／根面上義歯等、診療内容に
応じて、残根状態なら残根上義歯と自動登録していきます。



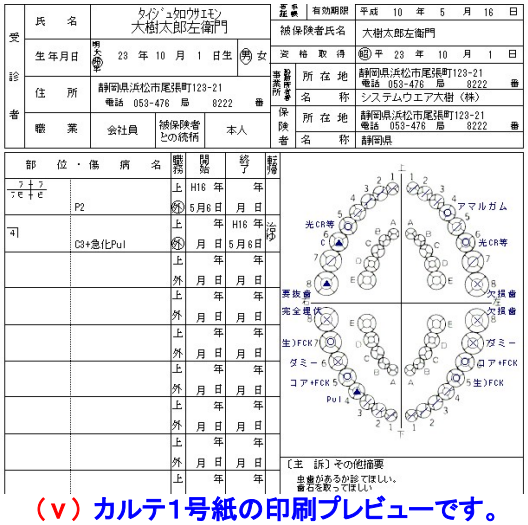
カルテ1号紙　画面

（ⅲ）「歯状態」ボタンを押しただけ、で作成されました。

登録後の文字や図形の移動も簡単で体裁が整います。

＜描画ツール搭載＞

（ⅳ）文字・線種や枠／色の任意の描画追加が可能です。



（ⅴ）カルテ1号紙の印刷プレビューです。

「歯状態」ボタンを押して呼出しただけの状態で何も手を加えていません。